

(様式第9)

慈病管(24)第132号
平成24年10月2日

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 慈恵大
理事長 栗原 敏

東京慈恵会医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成23年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	139人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	635人	28人	642.3人	看護補助者	63人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	8人	0人	8.0人	理学療法士	15人	臨床検査技師	108人
薬剤師	65人	1人	65.8人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	14人	その他	0人
助産師	19人	2人	20.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	996人	10人	1,002.3人	臨床工学技士	19人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	1人	0人	1.0人	栄養士	24人	その他の技術員	104人
歯科衛生士	4人	0人	4.0人	歯科技工士	0人	事務職員	215人
管理栄養士	15人	3人	17.0人	診療放射線技師	67人	その他の職員	4人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	902.8人	0.9人	903.7人
1日当たり平均外来患者数	2,960.9人	59.5人	3,020.4人
1日当たり平均調剤数	入院 976剤、 外来 657剤、 合計 1,633剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	進行膵臓癌及び胆道癌に対する塩酸ゲムシタピン併用WT1ペプチドワクチン療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 標準療法である塩酸ゲムシタピンとWT1を標的としたWT1ペプチドワクチンの第I相臨床試験を平成22年度に登録終了。当院では手術が可能となった1例を含め長期生存例と全生存期間の延長を認めた。現在、長期生存例に再発予防として実施継続中。			
医療技術名	進行膵臓癌及び胆道癌に対する塩酸ゲムシタピン併用WT1ペプチドパルス樹状細胞療法 第I相臨床試験	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 標準療法である塩酸ゲムシタピンと樹状細胞にWT1ペプチドをパルスした免疫療法を併用した第一相臨床試験を実施中である			
医療技術名	切除不能進行膵臓癌に対するゲムシタピン併用WT1ペプチドワクチン化学免疫療法とゲムシタピン単独療法のランダム化第II相臨床試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 標準療法である塩酸ゲムシタピンとWT1を標的としたWT1ペプチドワクチンの第I相臨床試験を平成22年度に登録終了。安全に実施できたため、有効性を確認する目的でランダム化試験を実施中。本試験は第II相多施設共同臨床試験である。			
医療技術名	抗CD20抗体(Rituximab)を用いたABO血液型不適合腎移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ABO血液型不適合腎移植では、抗血液型抗体が関与した拒絶反応を予防するため、従来、従前後に脾臓摘出術(脾摘)が行われてきた。脾摘に伴う侵襲および長期安全性に関する懸念があり、脾摘を行わない新たな治療法としてRituximab術前投与が行われるようになり、当院でも実施している。			
医療技術名	CGM(持続血糖モニター)を用いた糖尿病治療の最適化、並びに薬効の比較	取扱患者数	約200人
当該医療技術の概要 CGM(持続血糖モニター)を用いて、糖尿病治療の最適化、ならびに低血糖の減少が可能かを検討した。さらに、経口血糖降下薬ならびにインスリンの薬効の比較を詳細に行った。			
医療技術名	難治性造血器悪性腫瘍に対する自家末梢血幹細胞移植併用の大量化学療法	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 再発性悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対して自家末梢血幹細胞移植併用の大量化学療法を施行した			
医療技術名	難治性造血器悪性腫瘍に対する同種造血幹細胞移植	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 難治性造血器悪性腫瘍に対して骨髄破壊の前処置または骨髄非破壊の前処置を行い、同種造血幹細胞移植を施行した			
医療技術名	食道癌手術におけるサーモグラフィーを用いた再建臓器の血流評価	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 食道癌手術中に、サーモグラフィーを用いて再建臓器の血流を数値化し、適切な吻合部位を設定する。			
医療技術名	食道内多チャンネルインピーダンス・pH同時測定による胃食道逆流評価	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 胃食道逆流症状を認める症例に対して、食道内多チャンネルインピーダンス・pH同時測定を行い酸逆流と非酸逆流の有無を判定。			
医療技術名	Stationary 3D-manometryを用いた肛門機能検査	取扱患者数	約40人
当該医療技術の概要 Stationary 3D-manometryを用いた肛門機能検査を行い、肛門疾患や直腸・肛門機能障害の評価を施行している			
医療技術名	膵臓癌治療におけるメシル酸ナファモスタット動注療法と塩酸ゲムシタピン、及びTS-1併用療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 メシル酸ナファモスタットによる薬剤誘導性のNF- κ Bを抑制することで膵臓癌に対する標準治療薬である塩酸ゲムシタピンの感受性を改善し、またTS-1を併用することでさらなる治療効果を期待する方法である。生存期間の延長とclinical benefit responseの改善がend pointである。			

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	生体肝移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
肝移植以外に治療法のない進行性不可逆性肝疾患患者に対して、根治を目的としてその健康な三親等内の血縁者あるいは配偶者から肝臓の一部の提供を受けて、生体肝移植を行う。血液型不適合症例にも準備は整っている。			
医療技術名	門脈圧亢進症に対する腹腔鏡下脾臓摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
門脈圧亢進症に伴う脾機能亢進症に対し、低侵襲手術である腹腔鏡下脾臓摘出術を行うことで、血小板数や白血球数の改善が得られる。これにより出血傾向が改善することでの肝臓の治療や血小板数や白血球数の改善によるC型肝炎に対するインターフェロン治療の導入が可能となる。			
医療技術名	血小板減少性紫斑病の術前処置としてのエルトロンボパグの使用	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
血小板減少性紫斑病に対する脾摘出術の術前処置として、エルトロンボパグを使用することでγグロブリン製剤を使用する頻度が減少する。血液製剤による合併症や医療経済の面からみて有用である。			
医療技術名	完全胸腔鏡下肺癌切除術	取扱患者数	90人
当該医療技術の概要			
肺癌の根治手術が従来大きな開胸下に行われていたのに対し、小さな切開創から入れたカメラによる画像と、同じく小さな創から入れた器械により同等の手術を行う。手術の創が小さいのみならず、術後の疼痛が著しく軽く術後の合併症が少なく、回復や社会復帰が速い。術後成績も優良である。			
医療技術名	完全胸腔鏡下胸腺切除	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要			
従来前胸部の胸骨を大きく切開することで行われていた胸腺切除を、側胸部に数ヶ所の創のみから行う手術手技。術創が小さく、傷が目立たず、しかも回復が早い。			
医療技術名	難治気胸根治術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
高度の慢性肺疾患と肺機能低下のため開胸手術が行えなかった自然気胸に対して、胸腔鏡を用いて行う高度な手術。術後早期に退院することができ、退院後も良好な経過を取ることができる。			
医療技術名	超音波気管支下生検術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
気管支周囲の占拠性病変の診断のために開発された新しい手技。気管支鏡装置に超音波診断機を組み込み、気管～気管支壁を介して超音波のガイド下に針を刺し、組織の生検を行う。			
医療技術名	胸腹部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフト内挿術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要			
従来では、開胸・開腹により、大動脈の血流を遮断し、人工血管置換術による治療法しか手立てが無かった胸腹部大動脈瘤に対し腹部内臓分枝にカバースtentやステントによる枝を付け、ステントグラフト内挿術による瘤の空置を行う手術法。			
医療技術名	遠位弓部大動脈瘤に対する頸動脈バイパス術を併施したステントグラフト内挿術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
従来では、開縦隔し、脳循環を維持しながら循環停止による人工血管置換術が一般的で適応が限られていた遠位弓部大動脈瘤に対し、頸動脈バイパス術を併施することにより、循環停止することなく、ステントグラフト内挿術により瘤の空置を行う手術法。			
医療技術名	弓部大動脈瘤に対するRIBS(Retrograde in situ branch surgery)によるステントグラフト内挿術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
従来では、開縦隔し、脳循環を維持しながら循環停止による人工血管置換術が一般的で適応が限られていた弓部大動脈瘤に対し、RIBS(Retrograde in situ branch surgery)の手技を応用し、循環停止することなく、ステントグラフト内挿術により瘤の空置を行う手術法。			

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	弓部大動脈瘤に対するChimney法によるステントグラフト内挿術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要			
従来では、開縦隔し、脳循環を維持しながら循環停止による人工血管置換術が一般的で適応が限られていた弓部大動脈瘤に対し、Chimney法の手技を応用し、循環停止することなく、ステントグラフト内挿術により瘤の空置を行う手術法。			
医療技術名	人工膝関節置換術におけるカスタムカッピングデバイスの研究開発	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
人工膝関節置換術において、患者個々の膝関節および骨の状態をCTならびにMRI撮像し、専用のソフトを用いて3次元的な術前計画を立て、理想的な骨と人工膝関節の設置位置に製造されたカスタムカッピングデバイスが、手術計画に合致した位置に装着できるか、術中ナビゲーション装置や専用の計測器を用いて正確性、有効性、適合性を検証し、さらに開発を行う。			
医療技術名	人工膝関節置換術におけるペイシェント・マッチド・カッピングガイドの臨床評価	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
人工膝関節置換術において、患者個々の膝関節および骨状態のデータに基づいて製造されたペイシェント・マッチド・カッピングガイドが、手術計画に合致した位置に装着できるか、その適合性について評価する。術後は単純X線像を用いて検証する。			
医療技術名	実物大臓器立体モデルによる手術支援	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
骨格に著しい変形または欠損を伴う症例において、三次元画像のみで難易度の高い手術をシミュレーションすることは困難である。これに対して、本技術は、患者の骨格の実物大であって、かつ実際の手術器具を使用した手術シミュレーションが可能な立体モデルを作製することにより、当該領域における高難度手術についての安全性および正確性が向上する。			
医療技術名	Onyx液体塞栓物質LDを用いた脳動静脈奇形塞栓術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
国内でも施設限定で使用可能な液体塞栓物質を用いて、脳動静脈奇形のより安全な治療を施行している。			
医療技術名	頭蓋内ステントを用いた脳動脈瘤塞栓術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要			
認可直後の頭蓋内血管に使用可能なステントを用いて、広頸の脳動脈瘤塞栓術を施行している。			
医療技術名	急性期脳梗塞に対するMerciリトリーバルシステムを用いた脳血管内治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
急性期主幹動脈閉塞による脳梗塞に対して、経皮経管的脳血栓回収用機器Merciリトリーバルシステムを用いた血栓除去を行っている。			
医療技術名	グリオーマ幹細胞と樹状細胞の融合細胞を用いた免疫療法	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要			
神経膠腫は外科切除と放射線、化学療法を加えてもなお悪性で予後不良の疾患である。当科ではグリオーマ幹細胞と樹状細胞の融合細胞を用いた活性型グリオーマワクチンの開発を行い、臨床応用している。			
医療技術名	術中Dyna CTによる再構成ナビゲーション下神経内視鏡腫瘍摘出手術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要			
手術室でDyna CTを術中に撮影し、再構成した画像を利用してナビゲーション下で腫瘍を摘出する。神経内視鏡下で行い、低侵襲で確実に全摘出することができる。			
医療技術名	イリザロフ型小型創外固定器による関節拘縮の治療	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要			
手指用の小型創外固定器を用いて、従来の方法に比較してはるかに少ない侵襲で拘縮解除が可能である画期的な方法であり、良好な成績が得られている。			

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	頭蓋顔面先天異常症例における上・下顎骨切り	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 頭蓋顔面先天異常では、組織の低形成と以前の手術侵襲による瘢痕形成により、難易度の高い上・下顎同時骨切りが必要とされることが少なくない。手技は困難であるが、結果は他の方法に比較して優れている。			
医療技術名	上顎骨側方拡大術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 上顎骨発育障害に対し、骨切りと延長器装着により、側方への仮骨延長を行う新しい方法であり、今後適応症例が増加することが予測される。			
医療技術名	血管柄付神経移植による顔面神経の再建	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 悪性腫瘍摘出で顔面神経切除を行った症例に、外側広筋の運動枝を血管柄付で移植し、良好な神経回復を得ている。			
医療技術名	感染性心内膜炎(僧帽弁位)に対する弁形成術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 僧帽弁の感染巣を切除後、自己心膜パッチ、人工腱索、人工弁輪を用いて弁機能・形態を正常化させるとともに感染を終結する			
医療技術名	人工弁挿入不能例に対し自己心膜にて作成のNormo弁を使用する	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 人工弁置換症例で狭小弁輪(従来の人工弁が入らない)、人工弁挿入を希望しない患者に日本発の新しいコンセプトのNormo弁(自己心膜より作成)を挿入する			
医療技術名	ステントグラフト挿入後のリーク症例に対する弓部置換術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 弓部大動脈に対するステントグラフト挿入後のリーク症例に対して、破裂を予防する目的にて弓部置換+エレファントトランク法を用いて治療する			
医療技術名	心房細動に対する外科治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 心臓手術患者で、心房細動を合併する患者に対して洞調律を目指してMaze手術を行う			
医療技術名	自己肺動脈グラフトによる大動脈弁置換術(ロス手術)	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 小児・先天性大動脈弁に対して、代用人工弁置換にかわる自己肺動脈を用いた弁置換術。抗凝固療法、人工弁関連合併症の回避が期待される			
医療技術名	修正大血管転位症に対するダブルスイッチ術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 修正大血管転位症に対する解剖学的修復術であり、心房内血流転換術(セニング術)及び大血管スイッチあるいはラステリー手術を行う			
医療技術名	左心低形成症候群に対する外科治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 左室低形成僧帽弁・大動脈弁閉鎖等を伴う左心低形成症候群に対する多段階的心内修復術			
医療技術名	GOG0213婦人科腫瘍学グループ プラチナ感受性の再発卵巣癌、原発性腹膜癌および卵管癌に対する二次的腫瘍減量手術の有効性、およびカルボプラチンとパクリタキセルの併用療法にベバシズマブを併用維持療法として使用した場合の有効性を検討するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要:プラチナ感受性の再発卵巣癌、原発性腹膜癌または卵管癌の患者に対して、Second lineにベバシズマブを併用、さらにベバシズマブの維持療法を行うことにより、パクリタキセルとカルボプラチン単独のsecond line化学療法と比較して、全生存期間が延長するか否かを判断する。			

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	北関東婦人科がん臨床試験コンソーシアムGOTIC-001 婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構JGOG3019 上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌に対するPaclitaxel毎週点滴静注＋ Carboplatin 3週毎点滴 静注投与 対 Paclitaxel毎週点滴静注＋ Carboplatin 3週毎腹腔内投与のランダム化第II / III相試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要:上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌患者に対するfirst.line 化学療法としてのPaclitaxel 毎週点滴静注(IV)投与 およびCarboplatin3 週毎IV 投与の併用療法(dd.TCiv 療法)とPaclitaxel 毎週IV 投与およびCarboplatin3 週毎腹腔内(IP) 投与の併用療法(dd.TCip 療法)の有効性および安全性を比較し、Carboplatin IP 投与の意義を検討することである。			
医療技術名	角膜、結膜の扁平上皮内癌に対する5-フルオロウラシルの点眼治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 角結膜の扁平上皮癌に対する低侵襲の抗癌剤点眼治療が近年海外で注目されている。5-FUによるパルス点眼療法を我が国では当院で初めて使用を開始した。副作用もなく良好な結果をえている。			
医療技術名	非動脈炎性前部虚血性視神経症に対するウノプロストン点眼治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 非動脈炎性前部虚血性視神経症は現在有効な標準的治療法がない。本症に対して、強力な血管収縮物質であるエンドセリン-1の抑制効果を持つウノプロストンの点眼治療を開始した。当院が中央機関となり、多施設共同ランダム化並行群間比較試験として立ち上げ、現在、副作用もなく進行中である。			
医療技術名	眼内新生血管疾患および黄斑浮腫に対する抗VEGF抗体(ベバシズマブ)眼内注入治療	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要 難治性眼疾患である脈絡膜新生血管、血管新生緑内障、黄斑浮腫に対して非常に高い治療効果を発揮している。			
医療技術名	中心性漿液性脈絡網膜症に対する低照射エネルギー光線力学的治療	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要 これまで治療法が確立されていなかった中心性漿液性脈絡網膜症に対し、非常に高い治療効果が得られている。			
医療技術名	強度変調放射線治療(IMRT)	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 強度変調放射線治療(IMRT)は、コンピュータ技術によって腫瘍のみに放射線を集中して照射する革新的な照射技術で、これにより有害事象を軽減しつつ根治性を高めることが可能である。			
医療技術名	肝臓線維化活性化反応を反映する血漿TGF β LAP-Dの定量	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要 慢性および急性肝疾患における肝臓線維化活性をリアルタイムでモニターするために、患者血漿TGF- β LAP-Dを測定した。			
医療技術名	空腹時 ¹³ C-glucose呼気試験による肝臓インスリン抵抗性の診断	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 肝臓インスリン抵抗性を早期に診断するため、空腹時 ¹³ C-glucose呼気試験を開発し、約50名の患者さんに実施した。			
医療技術名	超音波エコーガイド下末梢神経ブロック	取扱患者数	145人
当該医療技術の概要 末梢神経を超音波エコーで描出しながら、神経ブロックを行う方法			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	122人	・膿疱性乾癬	0人
・多発性硬化症	94人	・広範脊柱管狭窄症	11人
・重症筋無力症	180人	・原発性胆汁性肝硬変	355人
・全身性エリテマトーデス	296人	・重症急性膵炎	12人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	56人
・再生不良性貧血	91人	・混合性結合組織病	30人
・サルコイドーシス	145人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	23人	・特発性間質性肺炎	8人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	219人	・網膜色素変性症	284人
・特発性血小板減少性紫斑病	187人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	25人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	428人	・神経線維腫症	381人
・大動脈炎症候群	33人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	0人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	61人	・慢性血栓栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	49人	・ライゾーム病	66人
・クローン病	130人	・副腎白質ジストロフィー	6人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	8人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	13人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	91人	・球脊髄性筋萎縮症	6人
・アミロイドーシス	23人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	13人
・後縦靭帯骨化症	0人	・肥大型心筋症	115人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	106人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	19人	・リンパ管筋腫症(LAM)	3人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	88人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	5人	・黄色靭帯骨化症	13人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	106人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腋窩リンパ節郭清術の実施前におけるセンチネルリンパ節の同定及び生検	
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定及び転移の検索	
・腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	
・超音波骨折治療法	
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション	
・先天性難聴の遺伝子診断	
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	91回
部 検 の 状 況	部検症例数 40 例 / 部検率 8.39%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
別紙の通り				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 89

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別紙の通り			

計 206

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	高免疫原性細胞ワクチンと化学療法との併用による低侵襲・個別化療法の確立	小井戸 薫雄	消化器・肝臓内科	1,560,000円	補・委 文部科学省科学研究費 基盤研究 (C)
2	進行膵臓がんに対する免疫化学療法	小井戸 薫雄	消化器・肝臓内科	3,000,000円	補・委 財団法人がん研究振興財団
3	膵癌アジュバンド療法による患者選択	小井戸 薫雄	消化器・肝臓内科	1,000,000円 (2年間合計)	補・委 三井生命厚生事業財団 医学研究助成
4	塞栓症原因となる微小栓子の検出力を向上した頸部超音波栓子検出装置の開発	古幡 博 三村 秀毅 他	ME研究室 神経内科	13,500,000円	補・委 課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業 (経産省)
5	低侵襲的低周波数超音波脳血栓溶解法の効果増高に関する臨床応用基盤研究	古幡 博 小川 武希 三村 秀毅 他	ME研究室 救急科 神経内科	32,000,000円 (内間接経費 9,000,000円)	補・委 医療技術実用化総合研究事業 (厚労省)
6	ネフロン発生分子機構に基づく腎障害発症機序の解明と新規治療標的分子の探索	宇都宮 保典	腎臓・高血圧内科	1,100,000円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究 (C)
7	カルシウムチャンネルを標的とした二次性副甲状腺機能亢進症治療基盤の構築	横山 啓太郎	腎臓・高血圧内科	1,100,000円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究 (C)
8	BMP4による糸球体血管係蹄発症と正常構造維持における役	宮崎 陽一	腎臓・高血圧内科	1,500,000円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究 (C)
9	異種胎児の後腎組織を足場としたヒト腎臓再生法の開発	横尾 隆	腎臓・高血圧内科	800,000円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究 (C)
10	破骨細胞阻害因子ノックアウトマウスのリン調節の解明	大城戸 一郎	腎臓・高血圧内科	600,000円	補・委 文部科学省科研費、若手研究B
11	IgA腎症末梢血単球のmiRNA発現プロフィールとその発症・進展への関与の解明	上田 裕之	腎臓・高血圧内科	1,000,000円	補・委 文部科学省科研費、若手研究B
12	腎臓におけるカベオリン1の意義に関する研究	山本 泉	腎臓・高血圧内科	1,400,000円	補・委 文部科学省科研費、若手研究B
13	ニワトリ胚を用いた新規腎臓再生法の開発	福井 亮	腎臓・高血圧内科	600,000円	補・委 文部科学省科研費、若手研究B
14	核内レセプターの新規機能解析と構造情報に基づいた線維化疾患治療法の開発	横山 啓太郎	腎臓・高血圧内科	7,000,000円	補・委 文部科学省ターゲットタンパク研究

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
15	高齢者における薬物性腎障害の調査	細谷 龍男	腎臓・高血圧内科	1,500,000円	補・委 厚生労働省 腎疾患対策研究事業
16	Calciphylaxisの診断・治療に関わる調査・研究	細谷 龍男	腎臓・高血圧内科	300,000円	補・委 厚生労働省 難治性疾患克服研究事業補助金
17	IgA腎症における多施設共同研究	川村 哲也	腎臓・高血圧内科	3,000,000円	補・委 厚生労働省 難治性疾患克服研究事業補助金
18	小児ネフローゼ症候群に対する初期治療確立を目指した多施設共同臨床研究と拡大臨床試験体制整備	川村 哲也	腎臓・高血圧内科	200,000円	補・委 厚生労働省 小児疾患臨床研究事業
19	特発性心筋症に関する調査研究	吉村 道博	循環器内科	300,000円	補・委 厚生労働省 難治性疾患克服研究事業
20	副腎と心臓におけるアルドステロン合成の機序の研究	吉村 道博	循環器内科	1,820,000円	補・委 文部科学省 科研費 基盤研究C
21	心臓におけるコルチコステロイド産生調節機構と病態生理作用の解明:糖の関与を中心に	名越 智古	循環器内科	2,210,000円	補・委 文部科学省 科研費 若手研究B
22	心不全における炎症のメカニズム解明(12/ボキシングナーゼとアルドステロンの検討)	香山 洋介	循環器内科	1,170,000円	補・委 文部科学省 科研費 若手研究B
23	不全心筋における細胞内情報伝達系と細胞内カルシウム動態の変化	森本 智	循環器内科	1,170,000円	補・委 文部科学省 科研費 若手研究B
24	CGM(持続血糖モニター)を用いた糖尿病治療の最適化	西村 理明	糖尿病・代謝・内分泌内科	16,980,000円	補・委 日本糖尿病財団
25	睡眠医療及び睡眠研究用プラットフォームの構築に関する研究	伊藤 洋	精神神経科	1,000,000円	補・委 厚生労働省 精神神経疾患研究開発費
26	睡眠障害患者のQOLを改善するための科学的根拠に基づいた診断治療技術の開発	山寺 亘	精神神経科	1,000,000円	補・委 厚生労働省 科学研究費補助金
27	不規則勤務による睡眠のマイクロ構造上変化と精神状態および機能	小曾根 基裕	精神神経科	910,000円	補・委 文部科学省 研究費補助金 基盤研究(C)
28	かかりつけ医のための認知症の鑑別診断と疾患別治療に関する研究	品川 俊一郎	精神神経科	1,500,000円	補・委 厚生労働省 科学研究費補助金

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
29	アルツハイマー病における社会的認知の障害の神経基盤に関する研究	品川 俊一郎	精神神経科	650,000円	補・委 文部科学省研究費補助金 若手研究(B)
30	左心不全ラットの脳における神経内分泌学的研究	宮田 市郎	小児科	2,470,000円 (うち間接経費:570,000円)	補・委 文部科学省研究費補助金基盤研究(C)
31	頭頸部がんにおける表皮成長因子受容体ファミリー遺伝子の変異解析とその薬剤感受性	湯坐 有希	小児科	1,430,000円	補・委 文部科学省研究費補助金基盤研究(C)
32	母体葉酸投与に起因する胎児遺伝子メチル化修飾の組織特異的全ゲノム解析	河野 淳子	小児科	1,560,000円	補・委 文部科学省研究費補助金若手研究(B)
33	右心不全モデルラットを用いた右心不全の生理学的特徴を加味した治療法の確立	浦島 崇	小児科	910,000円	補・委 文部科学省研究費補助金若手研究(B)
34	小児気管支喘息重症発作に対するインプロテノール持続吸入療法の検討:サルブタモール持続吸入療法を対照とした多施設共同盲検ランダム化比較試験	勝沼 俊雄 (H22度繰越分)	小児科	42,512,000円 (うち間接経費9,811,000円)	補・委 厚生労働省 医療技術実用化総合研究事業(臨床研究・予防・治療技術開発研究事業)
35	原発性中性脂肪蓄積心筋血管症に対する医師主導型試験へのアプローチ	井田 博幸	小児科	200,000円	補・委 厚生労働省 科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)
36	食道癌におけるユビキチン類似蛋白質の意義	石橋 由朗	外科	1,430,000円	補・委 平成23年度科学研究費補助金 基盤研究
37	膵臓癌化学療法耐性克服に向けた基礎的研究	宇和川 匡	外科	2,000,000円	補・委 加藤記念バイオサイエンス研究振興財団
38	膵臓癌に対するアデノウイルスベクターを用いたTNF- α 腫瘍内導入およびメシル酸ナファモスタット併用化学療法の検討	古川 賢英	外科	500,000円	補・委 膵臓病研究財団
39	臨床応用を目指した膵臓癌に対する遺伝子治療に関する検討	古川 賢英	外科	3,000,000円	補・委 文部科学省科学研究費(学術研究助成基金) 若手研究B
40	ゲノムワイド関連解析を用いた革新的な肝移植後肝炎ウイルス再感染予防・治療法の確立	矢永 勝彦(研究分担)	外科	300,000円	補・委 厚生労働省 科学研究費
41	肺癌に対するビタミンDサプリメント二重盲検ランダム化プラセボ比較臨床試験	秋葉 直志	外科	650,000円	補・委 文部科学省 科学研究費
42	チタン細繊維を用いた靭帯・骨接合部の再建	丸毛 啓史	整形外科	1,040,000円	補・委 文部科学省 科学研究費 基盤研究(C)

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
43	原発性骨粗鬆症に対する骨密度・骨質同時評価によるテーラーメイド治療の確立	斎藤 充	整形外科	1,040,000円	補・委 文部科学省 科学研究費 基盤研究(C)
44	非侵襲的骨質評価法の確立	木田 吉城	整形外科	1,560,000円	補・委 文部科学省 科学研究費 基盤研究(C)
45	新規骨代謝改善薬の転移性骨腫瘍に対する効果の解析	前田 和洋	整形外科	2,210,000円	補・委 文部科学省 科学研究費 基盤研究(C)
46	神経線維腫症に伴うdystrophic typeの脊柱変形の長期術後成績に関する研究	舟崎 裕記	整形外科	1,000,000円	補・委 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
47	CRPS成立における脳内疼痛関連情動神経機構の意義の解明	池田 亮	整形外科	1,000,000円	補・委 日本イーライリリー研究助成金
48	疲労骨折発症過程の解析および低出力超音波パルス療法(LIPUS)による治癒促進効果の検証	牛久 智加良	整形外科	1,000,000円	補・委 日本イーライリリー研究助成金
49	グリオーマ幹細胞と樹状細胞の融合細胞を用いた活性型グリオーマワクチンの開発	赤崎 安晴	脳神経外科	1,000,000円	補・委 文部科学省 科学研究費補助金
50	新しいステントレス僧帽弁開発:臨床応用に向けて	代表者:夜久均 研究分担者:橋本和弘	心臓外科	4,400,000円	補・委 日本学術振興会
51	子宮頸管操作における炎症性物質と前置・癒着胎盤の関連に対する研究	大浦 訓章	産婦人科	1,690,000円	補・委 文部科学省 研究費補助金 挑戦的萌芽研究
52	卵巣明細胞腺癌の予後因子同定と予後判定バイオマーカー・分子標的治療薬の開発	高倉 聡	産婦人科	1,040,000円	補・委 文部科学省 研究費補助金 基盤研究(C)
53	化学療法先行治療を進行卵巣がんの標準治療とするための研究	落合 和徳	産婦人科	800,000円	補・委 厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)
54	高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研究	颯川 晋	泌尿器科	250,000円	補・委 厚生労働科学研究費助成金「がん臨床研究事業」
55	骨髄における下部尿路機能を制御する神経伝達物質治療薬の探求	古田 昭	泌尿器科	500,000円	補・委 文部科学省 研究補助金(基盤研究C)
56	新規日本人由来前立腺癌細胞株を用いたホルモン抵抗性獲得基序の解明	木村 高弘	泌尿器科	1,400,000円	補・委 文部科学省 研究補助金(若手研究(B))

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
57	ホルモン耐性前立腺癌に対するsemaphorin3Cantisenseの治療効果	林 典宏	泌尿器科	2,730,000円	補・委 文部科学省研究補助金(若手研究(B))
58	血管新生疾患の分子機構解明と治療に関する研究	林 孝彰	眼科	6,000,000円	補・委 公益財団法人・車両競技公益資金記念財団
59	次世代シーケンサーを用いたエクソーム配列解析による黄斑ジストロフィーの原因遺伝子と発症機序の解明	林 孝彰	眼科	3,000,000円	補・委 文部科学省・科学研究費補助金(難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業)
60	緊張部型中耳真珠腫の成因・進展機序の解明、予防と手術的治療に関する研究	森山 寛	耳鼻咽喉科	1,100,000円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究(C)
61	粘膜用細胞シート、製造方法及びその臨床応用に関する研究	森山 寛	耳鼻咽喉科	3,000,000円	補・委 東京慈恵会医科大学大学院 医学研究科研究推進費
62	人工中耳粘膜移植とドラッグデリバリーシステムの融合による新しい鼓室形成術の研究	小島 博己	耳鼻咽喉科	1,000,000円	補・委 東京慈恵会医科大学研究奨励費
63	立体画像表示システムを用いた鼻副鼻腔ステレオナビゲーション手術術式の研究	鴻 信義	耳鼻咽喉科	1,000,000円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究(C)
64	空中浮遊微生物(真菌、黄色ブドウ球菌)による好酸球性副鼻腔炎の発症とその病態解明	松脇 由典	耳鼻咽喉科	1,100,000円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究(C)
65	中耳粘膜の血流動態が中耳腔全圧に及ぼす影響に関する研究	内水 浩貴	耳鼻咽喉科	400,000円	補・委 文部科学省科研費、若手研究(B)
66	22q11.2欠失症候群の内耳形成異常におけるFGFファミリーシグナルの機能解析	谷口 雄一郎	耳鼻咽喉科	1,500,000円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究(C)
67	難治性副鼻腔炎と下気道疾患の関連-IL-33による粘膜組織内の相互作用について-	和田 弘太	耳鼻咽喉科	1,400,000円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究(C)
68	立体画像表示を用いた内視鏡下鼻内手術トレーニングシステムの開発	飯村 慈朗	耳鼻咽喉科	1,000,000円	補・委 文部科学省科研費、若手研究(B)
69	内耳初期発生に必要な耳板陥入シグナルの解明	力武 正浩	耳鼻咽喉科	1,900,000円	補・委 文部科学省科研費、若手研究(B)
70	頭頸部癌に対するビタミンD投与と遺伝子多型の術後再発予防に関する研究	濱 孝憲	耳鼻咽喉科	1,000,000円	補・委 東京慈恵会医科大学研究奨励費

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
71	マイクロダイセクションを用いた発生中の血管条におけるメラノサイト分化誘導機構探索	小林 俊樹	耳鼻咽喉科	500,000円	補・委 文部科学省科研費、若手研究(B)
72	突発性難聴に対する新規治療法の確立-鼓室内投与法を利用した免疫グロブリン大量投与-	小森 学	耳鼻咽喉科	830,000円	補・委 東京慈恵会医科大学研究奨励費
73	リハ実施は移植神経幹細胞の生着率・分化に影響し、脳卒中後の麻痺回復を促進するか	安保 雅博	リハビリテーション	780,000円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
74	上肢麻痺に対して最も有効な治療戦略とは？～TMS・tDCSと集中的作業療法の併用	角田 亘	リハビリテーション	500,000円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)
75	食品物性と嚥下動態:新たなスクリーニング検査の開発	百崎 良	リハビリテーション	600,000円	補・委 文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)
76	TGF-β活性化反応を標的とした肝疾患の新規診断法、治療、予防法のための臨床研究	(分担)松浦知和	臨床検査医学講座	8,500,000円	補・委 (独)医薬基盤研究所
77	安定同位医学応用研究基盤拠点(SI医学応用研究基盤拠点)の形成	(分担)松浦知和	臨床検査医学講座	1,500,000円	補・委 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
78	バイオリクターでの血漿蛋白生産法の開発	(分担)松浦知和	臨床検査医学講座	700,000円	補・委 (財)ヒューマンサイエンス振興財団 政策創薬総合研究事業
79	毒素感受性肝炎モデルマウスとバイオ人工肝臓を用いた肝性脳症惹起蛋白質の同定	松浦知和	臨床検査医学講座	1,170,000円	補・委 文部科学省(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(科学研究費補助金(基盤研究(C)))
80	1.AFSでの埋め込み型バイオ人工肝臓の作製 2.インプラントの土台となる人工骨の作製	(分担)松浦知和	臨床検査医学講座	500,000円	補・委 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
81	麻酔薬ポストコンディショニングにおける心筋ミトコンドリア保護効果に関する研究	三尾 寧	麻酔部	910,000円	補・委 文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
82	癌性疼痛におけるモルヒネ長期髄腔内投与の副作用についての研究	近藤 一郎	麻酔部	650,000円	補・委 文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
83	心臓外科手術患者のビタミンD濃度およびビタミンD受容体遺伝子多型と重症度との関連	讚井 将満	集中治療部	1,430,000円	補・委 文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
84	In vivoナノイメージングによる心疾患の病態解析	照井 貴子	麻酔部	1,300,000円	補・委 文部科学省 科学研究費助成事業 若手研究(B)

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
85	麻薬プロドラッグを用いた新たな疼痛管理法への挑戦	安井 豊	麻酔部	65,000円	補・委 文部科学省 科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究
86	内視鏡機器・デバイスの開発及び早期臨床試験に関する研究	加藤 智弘	内視鏡科	2,500,000円	補・委 独立行政法人国立がん研究センター研究開発費
87	低侵襲的・低周波超音波脳血栓溶解法の効果増高に関する臨床応用基盤研究	古幡 博 小川 武希 他	総合医科学研究センター 医用エンジニアリング研究室, 救急科 他	88,430,000万円 (うち間接経費 20,406,000万円)	補・委 厚生労働科学研究費
88	急性脳梗塞治療における経頭蓋超音波脳血栓溶解装置の実用化	古幡 博 小川 武希 他	総合医科学研究センター 医用エンジニアリング研究室, 救急科 他	0円	補・委 科学技術振興機構
89	血液製剤の有効期間を6週間に戻すことの医学的、社会的意義	田崎 哲典	輸血部	650,000円(うち間接経費 150,000円)	補・委 文部科学省科研費(基盤研究C)
90					補・委

合計 89 件

(注)

1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Immunotherapy	Immunotherapy synergizes with chemotherapy targeting pancreatic cancer.	Koido S, Homma S, Takahara A, Namiki Y, Komita H, Uchiyama K, Ito M, Gong J, Ohkusa T, Tajiri H	消化器・肝臓内科
2	Breast Cancer Res.	Metastasis is an early event in mouse mammary carcinomas and is associated with cells bearing stem cell markers.	Weng D, Penzner JH, Song B, Koido S, Calderwood SK, Gong J	消化器・肝臓内科
3	Pancreas	Clinical and immunologic evaluation of dendritic cell-based immunotherapy in combination with gemcitabine and/or S-1 in the patients with advanced pancreatic carcinoma.	Kimura Y, Imai K, Shimamura K, Tsukada J, Tomoda T, Sunamura M, Shimodaira S, Yokokawa K, Koido S, Homma S, Okamoto M.	消化器・肝臓内科
4	Pharm Res	Inorganic-organic magnetic nanocomposites for use in preventive medicine: A rapid and reliable elimination system for cesium	Namiki Y, Namiki T, Ishii Y, Koido S, Nagase Y, Tsubota A, Tada N, Kitamoto Y.	消化器・肝臓内科
5	World J Gastroenterol	Corticotropin-releasing factor secretion from dendritic cells stimulated by commensal bacteria.	Hojo M, Ohkusa T, Tomeoku H, Koido S, Asaoka D, Nagahara A, Watanabe S.	消化器・肝臓内科
6	Clin Dev Immunol	Current immunotherapeutic approaches in pancreatic cancer.	Koido S, Homma S, Takahara A, Namiki Y, Tsukinaga S, Mitobe J, Odahara S, Yukawa T, Matsudaira H, Nagatsuma K, Uchiyama K, Satoh K, Ito M, Komita H, Arakawa H, Ohkusa T, Gong J, and Tajiri H	消化器・肝臓内科
7	Cancer Immuno Immunotherapy	Gemcitabine enhances Wilms' tumor gene WT1 expression and sensitizes human pancreatic cancer cells with WT1-specific T cell-mediated antitumor immune response.	Takahara A, Koido S, Ito M, Nagasaki E, Sagawa Y, Iwamoto T, Komita H, Ochi T, Fujiwara H, Yasukawa M, Mineno J, Shiku H, Nishida S, Sugiyama H, Tajiri H, Homma S.	消化器・肝臓内科
8	J Biomed Biotechnol	Immunologic monitoring of cellular responses by dendritic/tumor cell fusion vaccines.	Koido S, Homma S, Takahara A, Namiki Y, Komita H, Nagasaki E, Ito M, Nagatsuma K, Uchiyama K, Satoh K, Ohkusa T, Gong J, Tajiri H.	消化器・肝臓内科
9	Parkinsonism and Related Disorders 2012; 18(7):906-908.	Actigraphic study of tremor before and after treatment with zonisamide in patients with Parkinson's disease.	Mochio S, Sengoku R, Kono Y, Morita M, Mitsumura H, Takagi S, Kamiyama T, Oka H.	神経内科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
10	J Neurol Transm 2011; 118:1323-7.	Reduced cardiac ¹²³ I-MIBG uptake reflects cardiac sympathetic dysfunction in de novo Parkinson's disease.	Oka H, Toyoda C, Yogo M, Mochio S.	神経内科
11	Mov Disord 2011; 27:264-271.	25-hydroxyvitamin D, vitamin D receptor gene polymorphisms, and severity of Parkinson's disease.	Suzuki M, Yoshioka M, Hashimoto M, Murakami M, Kawasaki K, Noya M, Takahashi D, Urashima M.	神経内科
12	BMC Neurology 2011; 11:157-163.	The odor stick identification test for Japanese differentiates Parkinson's disease from multiple system atrophy and progressive supra nuclear palsy.	Suzuki M, Hashimoto M, Yoshioka M, Murakami M, Kawasaki K, Urashima M.	神経内科
13	J Neurol 2011; 259: 574-5.	A case of segmental zoster paresis with enhanced anterior and posterior spinal roots on MRI.	Yoshioka M, Kurita Y, Hashimoto M, Murakami M, Suzuki M.	神経内科
14	Eur Neurol 2012; 67: 154.	Zoster sine herpete: Detection by skin exudates and contrast magnetic resonance imaging.	Sengoku R, Yaguchi H, Mastushima S, Mochio S.	神経内科
15	Hypertension Research 2012 in press.	Stroke patients with cerebral microbleeds on MRI scans have arteriolosclerosis as well as systemic atherosclerosis.	Shimoyama T, Iguchi Y, Kimura K, Mitsumura H, Sengoku R, Kono Y, Morita M, Mochio S.	神経内科
16	J Neurol Sci 2011; 304:40-3.	Spontaneous intra-cranial arterial dissection frequently causes anterior cerebral artery infarction.	Shimoyama T, Kimura K, Iguchi Y, Shibasaki K, Watanabe M, Sakai K, Sakamoto Y, Aoki J.	神経内科
17	難病と在宅ケア 2011; 17(8): 18-20.	進行性核上性麻痺における自律神経障害.	河野優, 梅原淳, 高木聡, 仙石鍊平, 持尾聡一郎.	神経内科
18	末梢神経 2011;22(2):262-3.	ステロイドパルス療法とγグロブリン大量療法の併用が, Churg-Strauss症候群の末梢神経障害に著効した69歳男性例.	仙石鍊平, 猪川祐子, 山崎幹大, 河野優, 森田昌代, 持尾聡一郎.	神経内科
19	Clin. Exp. Nephrol. 2011;16:269-78.	Antihypertensive effect of a fixed-dose combination of losartan /hydrochlorothiazide in patients with uncontrolled hypertension: a multicenter study.	Hosoya T, Kuriyama S, Ohno I, Kawamura T, Ogura M, Ikeda M, Ishikawa M, Hayashi F, Kanai T, Tomonari H, Soejima M, Akaba K, Tokudome G.	腎臓・高血圧内科
20	Clin Exp Nephrol. 2011;15:175-8.	Augmented antihypertensive effect of a fixed dose combination formula of candesartan and hydrochlorothiazide in a patient on peritoneal dialysis.	Kuriyama S, Otsuka Y, Ueda H, Sugano N, Yoshizawa T, Yamada T, Hosoya T.	腎臓・高血圧内科
21	Nephron Exp Nephrol.2011;e32-40.	Metanephros Transplantation Inhibits the Progression of Vascular Calcification in Rats with Adenine-Induced Renal Failure.	Yokote S, Yokoo T, Matsumoto K, Ohkido I, Utsunomiya Y, Kawamura T, Hosoya T.	腎臓・高血圧内科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
22	J Nephrol. 2012;25:50-5.	Functional development of a transplanted embryonic kidney: effect of transplantation site.	Matsumoto K, Yokoo T, Yokote S, Utsunomiya Y, Ohashi T, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
23	Nephrol Dial Transplant.2011;26:3555-60.	Low glomerular density is a risk factor for progression in idiopathic membranous nephropathy.	Tsuboi N, Kawamura T, Miyazaki Y, Utsunomiya Y, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
24	J Renin Angiotensin Aldosterone Syst. 2012;13:113-7.	The long-term antiproteinuric effect of eplerenone, a selective aldosterone blocker, in patients with non-diabetic chronic kidney disease.	Tsuboi N, Kawamura T, Okonogi H, Ishii T, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
25	Am J Nephrol. 2011;34:542-8.	Glomerular density-associated changes in clinicopathological features of minimal change nephrotic syndrome in adults.	Koike K, Tsuboi N, Utsunomiya Y, Kawamura T, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
26	Clin Nephrol.2012;77:347-51.	Serum soluble α -Klotho in hemodialysis patients.	Yokoyama K, Imura A, Ohkido I, Maruyama Y, Yamazaki Y, Hasegawa H, Urae J, Sekino H, Nabeshima Y, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
27	Kidney Int.2012;40:862-9.	Guidelines and medication compliance.	Yokoyama K, Tanno Y, Ohkido I, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
28	Kidney Int.2012;81:800-1.	Clinical impact of a combined therapy of The hypothesis that type of species change depends on neutral-pH PD solutions.	Nakao M, Yokoyama K, Tanno Y, Ohkido I, Hayakawa H, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
29	Int J Artif Organs.2011;34:571-6.	Nafamostat mesilate as an anticoagulant during continuous veno-venous hemodialysis: a three-year retrospective cohort study.	Maruyama Y, Yoshida H, Uchino S, Yokoyama K, Yamamoto H, Takinami M, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
30	Clin Nephrol.2012;77:32-9.	Clinicopathological impacts of activated transcription factor c-Jun in peritubular capillary endothelial cells in chronic antibodymediated rejection after kidney transplantation.	Kobayashi A, Takahashi T, Horita S, Yamamoto I, Yamamoto H, Tanabe K, Yamaguchi Y, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
31	J Cardiovasc Electrophysiol 2011;22(9):1080-2	Recurrent atrial arrhythmia in patients with atrial fibrillation following pulmonary vein isolation.	Matsuo S, Yamane T, Hioki M, Ito K, Tanigawa SI, Yamashita S, Inada K, Date T, Yoshimura M.	循環器内科
32	Heart Rhythm 2011;8(9):1398-403	Noninvasive vectorcardiographic evaluation of pulmonary vein-atrial reconnection after pulmonary vein isolation for atrial fibrillation.	Yamashita S, Date T, Yamane T, Matsuo S, Ito K, Narui R, Hioki M, Tanigawa S, Nakane T, Tokuda M, Inada K, Yoshida H, Sugimoto K, Yoshimura M.	循環器内科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
33	Circ Arrhythm Electrophysiol 2011;4(5):601-8	Repeated provocation of time- & ATP-induced early pulmonary vein reconnections after pulmonary vein isolation: eliminating paroxysmal atrial fibrillation in a single procedure.	Yamane T, Matsuo S, Date T, Lellouche N, Hioki M, Narui R, Ito K, Tanigawa SI, Yamashita S, Tokuda M, Yoshida H, Inada K, Shibayama K, Miyanaga S, Miyazaki H, Abe K, Sugimoto KI, Yoshimura M.	循環器内科
34	Europace 2011;13(11):1549	A case of atrioventricular nodal reentrant tachycardia with high take-off coronary sinus.	Yamashita S, Yamane T, Yoshimura M.	循環器内科
35	J Cardiovasc Electrophysiol 2011;22(12):1331-8	Completion of mitral isthmus ablation using a steerable sheath: prospective randomized comparison with a nonsteerable sheath.	Matsuo S, Yamane T, Date T, Hioki M, Narui R, Ito K, Tanigawa S, Nakane T, Yamashita S, Tokuda M, Inada K, Nojiri A, Kawai M, Sugimoto K, Yoshimura M.	循環器内科
36	Circ J 2012;76(1):145-51	Impact of body mass index on the clinical outcome in patients hospitalized with congestive heart failure.	Komukai K, Minai K, Arase S, Ogawa T, Nakane T, Nagoshi T, Kayama Y, Abe Y, Morimoto S, Ogawa K, Fujii S, Sekiyama H, Date T, Kawai M, Hongo K, Taniguchi I, Yoshimura M.	循環器内科
37	J Clin Endocrinol Metab 2012;97(1):E14-E21.	Paradoxical clearance of natriuretic peptide between pulmonary and systemic circulation: A pulmonary mechanism of maintaining natriuretic peptide plasma concentration in obese individuals.	Date T, Yamane T, Yamashita S, Matsuo S, Matsushima M, Inada K, Taniguchi I, Yoshimura M.	循環器内科
38	Pacing Clin Electrophysiol 2012;35(1):28-37.	Real-time dominant frequency analysis of the pulmonary vein in patients with paroxysmal atrial fibrillation.	Matsuo S, Yamane T, Date T, Tokutake KI, Hioki M, Ito K, Narui R, Tanigawa SI, Tokuda M, Yamashita S, Inada K, Minai K, Komukai K, Sugimoto KI, Yoshimura M.	循環器内科
39	Intern Med 2012;51(3):239-48	Contribution of extracardiac factors to the inconsistency between plasma B-type natriuretic peptide levels and the severity of pulmonary congestion on Chest X-rays in the diagnosis of heart failure.	Nakane T, Kawai M, Komukai K, Kayama Y, Matsuo S, Nagoshi T, Minai K, Date T, Ogawa T, Yagi H, Yoshimura M.	循環器内科
40	Pacing Clin Electrophysiol 2012;35(3):e65-8	Identification of a conduction gap of the mitral isthmus by using a novel high-density mapping catheter.	Matsuo S, Yamane T, Hioki M, Tanigawa SI, Tokutake KI, Ito K, Narui R, Nakane T, Tokuda M, Yamashita S, Inada K, Date T, Sugimoto KI, Yoshimura M.	循環器内科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
41	Diabetes Technol Ther. 2011 Mar;13(3):303-8	Comparing the efficacy of α -glucosidase inhibitors in suppressing postprandial hyperglycemia using continuous glucose monitoring: a pilot study—the MAJOR study.	Tsujino D, Nishimura R, Taki K, Morimoto A, Tajima N, Utsunomiya K.	糖尿病・代謝・内分泌内科
42	Diabetes Technol Ther. 2011 Jun;13(6):667-70. Epub 2011 Apr 2.	Relationship among A1C, hypoglycemia, and hyperglycemia in Japanese with type 2 diabetes—results from continuous glucose monitoring data.	Morimoto A, Nishimura R, Tsujino D, Taki K, Tajima N, Utsunomiya K.	糖尿病・代謝・内分泌内科
43	Breast Cancer. 2012 Jul;19(3):218-37.	Possible clinical cure of metastatic breast cancer: lessons from our 30-year experience with oligometastatic breast cancer patients and literature review.	Kobayashi T, Ichiba T, Sakuyama T, Arakawa Y, Nagasaki E, Aiba K, Nogi H, Kawase K, Takeyama H, Toriumi Y, Uchida K, Kobayashi M, Kanehira C, Suzuki M, Ando N, Natori K, Kuraishi Y.	腫瘍・血液内科
44	Sleep and Biological Rhythms 2012;10:157-60.	Effect of Yokukansan on Psychophysiological Insomnia Evaluated using Cyclic Alternating Pattern as an Objective Marker of Sleep Instability	Ozone M, Yagi T, Chiba S, Aoki K, Kuroda A, Mitsui K, Itoh H, Sasaki M.	精神科
45	Japanese Journal of Morita Therapy 2011;22:151-64	Initial trends in depression scores predict differential treatment outcomes	Spates CR, Pagoto S, Nakamura K.	精神科
46	Iranian Journal of Public Health 2012;41:17-27	Long absence from work due to sickness among psychiatric outpatients in Japan, with reference to a recent trend for perfectionism	Nakamura K, Seto H, Okino S, Ono K, Ogasawara M, Shibamoto Y, Agata T, Nakayama K.	精神科
47	Neuropsychiatr Dis Treat 2011;7:655-62	Predisposition for borderline personality disorder with comorbid major depression is associated with that for polycystic ovary syndrome in female Japanese population	Kawamura K, Maesawa C, Nakamura K, Nakayama K, Morita M, Hiruma Y, Yoshida T, Sakai A, Masuda T.	精神科
48	Psychogeriatrics 2011;11:141-9	Association between brain-derived neurotrophic factor(BDNF) gene polymorphisms and executive function in Japanese patients with Alzheimer's disease	Nagata T, Shinagawa S, Nukariya K, Ochiai Y, Kawamura S, Agawa-Ohta M, Ksahara H, Nakayama K, Yamada H.	精神科
49	Psychogeriatrics 2011;11:235-41	Differentiation between amnesic-mild cognitive impairment and early-stage Alzheimer's disease using Frontal Assessment Battery test	Yamao K, Nagata T, Shinagawa S, Nukariya K, Ochiai Y, Kasahar H, Nakayam K.	精神科
50	Dement Geriatr Cong Disord 2011;32:379-86	Association between nerve growth factor gene polymorphism and executive dysfunction in Japanese patients with early-stage Alzheimer's disease and amnesic mild cognitive impairment	Nagata T, Shinagawa S, Nukariya K, Nakayama R, Nakayama K, Yamada H.	精神科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
51	Mol Genet Metab. 2011;103(1):98-100.	Oral administration of recombinant human acid α -glucosidase reduces specific antibody formation against enzyme in mouse.	Ohashi T, Iizuka S, Shimada Y, Eto Y, Ida H, Hachimura S, Kobayashi H.	小児科
52	J Gene Med. 2011;13(5):262-8.	Minimum requirement of donor cells to reduce the glycolipid storage following bone marrow transplantation in a murine model of Fabry disease.	Yokoi T, Kobayashi H, Shimada Y, Eto Y, Ishige N, Kitagawa T, Otsu M, Nakauchi H, Ida H, Ohashi T.	小児科
53	Mol Genet Metab. 2011;104(1-2):123-8	Generation of induced pluripotent stem (iPS) cells derived from a murine model of Pompe disease and differentiation of Pompe-iPS cells into skeletal muscle cells.	Kawagoe S, Higuchi T, Meng XL, Shimada Y, Shimizu H, Hirayama R, Fukuda T, Chang H, Nakahata T, Fukada SI, Ida H, Kobayashi H, Ohashi T, Eto Y.	小児科
54	Mol Genet Metab. 2011;104(4):566-73.	Endoplasmic reticulum stress induces autophagy through activation of p38 MAPK in fibroblasts from Pompe disease patients carrying c.546 G> T mutation.	Shimada Y, Kobayashi H, Kawagoe S, Aoki K, Kaneshiro E, Shimizu H, Eto Y, Ida H, Ohashi T.	小児科
55	Biophys. Res. Commun. 2011;415(2):274-8.	Proteasome inhibitors improve the function of mutant lysosomal alpha-glucosidase in fibroblasts from Pompe disease patient carrying c.546G>T mutation. Biochem.	Shimada Y, Nishida H, Nishiyama Y, Kobayashi H, Higuchi T, Eto Y, Ida H, Ohashi T.	小児科
56	Mol Genet Metab. 2011;102(2):170-5	Pathology of the first autopsy case diagnosed as mucopolipidosis type III alpha/beta suggesting autophagic dysfunction.	Kobayashi H, Shimada Y, Ikegami M, Kawai T, Sakurai K, Urashima T, Iijima M, Fujiwara M, Kaneshiro E, Ohashi T, Eto Y, Ishigaki K, Osawa M, Kyosen SO, Ida H.	小児科
57	Leukemia Res 2011; 35: 416-418.	Erythropoietin activates telomerase through transcriptional and posttranscriptional regulation in human erythroleukemic JAS-REN-A cells.	Akiyama M, Kawano T, Terao-Mikami Y, Ohta-Agawa M, Yamada O, Ida H, Yamada H.	小児科
58	Brain and Development 2011;33:379-383	Effectiveness and safety of non-intravenous high-dose Phenobarbital therapy for intractable epilepsy during childhood.	Kikuchi K, Hamano S, Oritsu T, Koichihara R, Tanaka M, Minamitani M, Ida H	小児科
59	Int Arch Allergy Immunol. 2011; 155 Suppl 1:27-33.	Peripheral blood mononuclear cells from patients with bronchial asthma show impaired innate immune responses to rhinovirus in vitro.	Iikura K, Katsunuma T, Saika S, Saito S, Ichinohe S, Ida H, Saito H, Matsumoto K.	小児科
60	PNAS 108(21):8797-802	Generation of keratinocytes from normal and recessive dystrophic epidermolysis bullosa-induced pluripotent stem cells.	Itoh M, Kiuru M, Cairo MS, Christiano AM	皮膚科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
61	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2011;59:389-98.	Surgical treatment for achalasia: when should it be performed, and for which patients?	Kashiwagi H, Omura N.	外科
62	Surg Endosc 2011;25:1048-53.	Effect of laparoscopic esophagomyotomy on chest pain associated with achalasia and prediction of therapeutic outcomes.	Omura N, Kashiwagi H, Yano F, Tsuboi K, Hoshino M, Yanaga K.	外科
63	慈大誌 2011;126(3):135-42.	ストレスホルモン測定に基づく手術における外科医の精神的ストレス評価の試み.	衛藤 謙、豊島裕子、飯田直子、大熊誠尚、満山喜宣、阿南 匡、林 武徳、小林徹也、羽田文紀、小川匡市、藤田哲二、柏木秀幸、矢永勝彦.	外科
64	Annals of Oncol 2011;22:v94.	S-1 as surgical adjuvant chemotherapy for stage II and III colorectal cancer.	Ogawa M, Hada T, Kobayashi T, Eto K, Hayashi T, Mitsuyama N, Ohkuma M, Iida N, Kashiwagi H, Yanaga K.	外科
65	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2012;19(1):44-7.	Central bisectionectomy (bisegmentectomy) of the liver.	Yanaga k.	外科
66	Surg Endosc 2011;25(10):3222-7 Epub 2011 Apr 22.	Single-incision laparoscopic splenectomy using the "tug-exposure technique" in adults: results of ten initial cases.	Misawa T, Sakamoto T, Ito R, Shiba H, Gocho T, Wakiyama S, Ishida Y, Yanaga K.	外科
67	J Surg Res 2011;171:851-8.	Glucose balance of porcine liver allograft is an important predictor of outcome.	Shiba H, Zhu X, Arakawa Y, Irefin S, Wang B, Trenti L, Sanchez IP, Fung JJ, Kelly DM.	外科
68	Pancreas 2011 E-pub	Hydroxyurea decreases gemcitabine resistance in pancreatic carcinoma cells with highly expressed ribonucleotide reductase.	Funamizu N, Kamata Y, Misawa T, Uwagawa T, Lacy CR, Yanaga K, Manome Y.	外科
69	Pancreas 2011;40:600-7.	Combination paclitaxel and inhibitor of nuclear factor-kappa B activation improves therapeutic outcome for model mice with peritoneal dissemination of pancreatic cancer.	Fujiwara Y, Furukawa K, Shimada Y, Iida T, Shiba H, Uwagawa T, Misawa T, Ohashi T, Yanaga K.	外科
70	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2011;18:731-9.	Nafamostat mesilate can prevent adhesion, invasion and peritoneal dissemination of pancreatic cancer thorough nuclear factor-kappa B inhibition.	Fujiwara Y, Furukawa K, Haruki K, Shimada Y, Iida T, Shiba H, Uwagawa T, Ohashi T, Yanaga K.	外科
71	Hepatogastroenterology 2011;58(109):1368-71.	Technical and mechanical risk factors for postoperative pancreatic fistula in pancreaticojejunostomy.	Nojiri T, Misawa T, Saitoh R, Shiba H, Usuba T, Uwagawa T, Wakiyama S, Hirohara S, Ishida Y, Yanaga K.	外科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
72	東京慈恵会医科大学雑誌 2011;126:187-91.	東京慈恵会医科大学における第1例目の 生体肝移植の経験	石田祐一, 北嘉昭, 脇山 茂樹, 坂本太郎, 伊藤隆 介, 柴浩明, 後町武志, 三 澤健之, 遠山洋一, 岡本 友好, 石井雄二, 矢永勝 彦.	外科
73	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2011;59:376-9.	Three-dimensional computed tomography for lung cancer in a patient with three right vein ostia	Akiba T, Tabei I, Kinoshita S, Yanagisawa S, Kobayashi S, Odaka M, Morikawa T.	外科
74	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2011;59:413-7.	Thoracoscopic Surgery for Pulmonary Metastases after Chemotherapy Using a Tailor-made Virtual Lung	Akiba T, Marushima H, Odaka M, Kamiya N ,Kinoshita S, Takeyama H, Morikawa T.	外科
75	Anticancer Res 2011;31(4):1395-8.	The expression of sialic fibronectin correlates with lymph node metastasis of thyroid malignant neoplasmas.	Takeyama H, Kyoda S, Okamoto T, Manome Y, Watanabe M, Kinoshita S, Uchida K, Sakamoto A, Morikawa T.	外科
76	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2011;17:501-3.	Thoracoscopic Lobectomy for Treating Cancer in a Patient with an Unusual Vein Anomaly	Akiba T, Marushima H, Kamiya N, Odaka M, Kinoshita S, Takeyama H, Kobayashi S, Morikawa T.	外科
77	Surgery Today 2011;41:1445-7.	Thoracoscopic Resection of a Mediastinal Venous Hemangioma: Report of a Case	Odaka M, Nakada T, Asano H, Yabe M, Kamiya N, Hirano J, Morikawa T.	外科
78	General Thoracic and Cardiovascular Surgery 2012;60:118-21.	Anomalous systemic arterial supply to the basal segments of the lung with three aberrant arteries	Akiba T, Marushima H, Kamiya N, Odaka M, Kinoshita S, Takeyama H, Kobayashi Susumu, Morikawa T.	外科
79	Breast J 2012;18(1):85-7.	Detection of Micrometastatic Cells in Peripheral Blood and Bone Marrow Fluid of Stage I-III Japanese Breast Cancer Patients and Transition following Anti- Cancer Drug Treatment.	Takeyama H, Shimada T, Manome Y, Uchida K, Morikawa T.	外科
80	Jikeikai Medical Journal 2011;57:33-8.	非特異的間質性肺炎と潰瘍性大腸炎を合 併した高安動脈炎(Takayasu Arteritis Associated with Nonspecific Interstitial Pneumonia and Ulcerative Colitis)	稲垣卓也, 清川貴子, 長 沼宏邦, 橋本和弘, 森川 利昭, 羽野寛.	外科
81	日本呼吸器外科学会雑誌 2011;25:522-6.	完全胸腔鏡下手術による巨大成熟型嚢胞 性奇形腫の一切除例	浅野久敏, 矢部三男, 神 谷紀輝, 平野純, 尾高真, 森川利昭.	外科
82	癌と化学療法 2011;38:1873-5.	乳癌骨転移の再燃に対してS-1治療が奏 功した1例.	武山浩, 京田茂也, 山下 晃徳, 木下智樹, 岡本友 好, 内田 賢, 森川利昭.	外科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
83	日本外科感染症学会雑誌 2011;8:153-7.	呼吸器・心臓外科領域の感染症に対する治療戦略. 症例報告: 抗菌薬の胸腔内投与が奏功した残存肺全摘後難治性MRSA膿胸の1例	松本倫典, 朝倉潤, 佐藤修二, 岡本友好, 矢部三男, 森川利昭.	外科
84	Anticancer Res 2011;31(4):1395-8.	The expression of sialic fibronectin correlates with lymph node metastasis of thyroid malignant neoplasmas.	Takeyama H.	外科
85	Breast J 2012;18(1):85-7.	Detection of Micrometastatic Cells in Peripheral Blood and Bone Marrow Fluid of Stage I-III Japanese Breast Cancer Patients and Transition following Anti-Cancer Drug Treatment.	Takeyama H.	外科
86	Circ Cardiovasc Interv 2011;4:495-504.	Paclitaxel-Eluting Stents Show Superiority to Balloon Angioplasty and Bare Metal Stents in Femoropopliteal Twelve-Month Zilver PTX Randomized Study Results.	Dake MD, Ansel GM, Jaff MR, Ohki T, et al.	外科
87	Society for Vascular Surgery 2011.	Results from the Zenith® Low Profile Pivotal AAA Endovascular Graft Clinical Study.	Ohki T.	外科
88	日本外科学会雑誌 2011;112(3):155.	治験立国による日本経済再生ビジョン.	大木隆生.	外科
89	日本外科学会雑誌 2011;112(6):394-8.	頸動脈狭窄症の最近の動向.	大木隆生.	外科
90	心臓 2011;42(4):423-4.	血管外科医のリーダーの果たす役割.	大木隆生.	外科
91	日本外科学会雑誌 2011;112(1):26-31.	胸腹部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフト術.	大木隆生.	外科
92	日本血管外科学会雑誌 2011;20(6):823-7.	これからの専門医資格と修練プログラム 血管内治療を含む, これからの血管外科 専門医資格と修練プログラム 慈恵医大での経験から.	石田厚, 金岡祐司, 大木隆生.	外科
93	総合臨床 2011;60(7):1617-8.	血管外科領域の血管内治療.	金子健二郎, 石田厚, 大木隆生.	外科
94	Heart View 2011:401-7.	末梢動脈疾患-インターベンションと外科治療の選択-期待される今後の治療法.	宿澤孝太, 墨誠, 田中克典, 大木隆生.	外科
95	日本外科学会雑誌 2011;112(6):394-8.	頸動脈狭窄症の最近の動向. 脳梗塞ゼロを実現した慈大式小切開Eversion内膜剥離術.	宿澤孝太, 墨誠, 金岡祐司, 大木隆生.	外科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
96	外科治療 2011;104(6).	血管外科領域のステント治療の現状と展望.	手塚雅博, 墨誠, 大木隆生.	外科
97	Cell Cycle 2011;10(15):2592-602.	Siah1/SIP regulates p27(kip1) stability and cell migration under metabolic stress.	Nagano Y, Fukushima T, Tanaka K, et al	外科
98	Pediatr Surg Int. 2011;27(4):379-84.	Inhibitory effect of drug-free hybrid liposomes on metastasis of human neuroblastoma.	Yoshizawa J, Negishi Y, et al	外科
99	Nature Medicine 2012;18(3):405-412	Wnt5a-Ror2 signaling between osteoblast-lineage cells and osteoclast precursors enhances osteoclastogenesis.	Maeda K, Kobayashi Y, Udagawa N, Marumo K, Martin TJ, Minami Y, Takahashi N.	整形外科
100	Journal of Applied Physiology 2011;111(4):1080-1087	Depressed contractile performance and reduced fatigue resistance in single skinned fibers of soleus muscle after long-term disuse in rats.	Udaka J, Terui T, Ohtsuki I, Marumo K, Ishiwata S, Kurihara S, Fukuda N	整形外科
101	Calcified Tissue International 2011;88(4):314-324	Effects of alfacalcidol on mechanical properties and collagen cross-links of the femoral diaphysis in glucocorticoid-treated rats.	Saito M, Marumo K, Ushiku C, Kato S, Sakai S, Hayakawa N, Mihara M, Shiraishi A.	整形外科
102	Osteoporosis International 2011;22(8):2373-2383	Changes in the contents of enzymatic immature, mature, and non-enzymatic senescent cross-links of collagen after once-weekly treatment with human parathyroid hormone (1-34) for 18 months contribute to improvement of bone strength in ovariectomized monkeys.	Saito M, Marumo K, Kida Y, Ushiku C, Kato S, Takao-Kawabata Ryoko, Kuroda T	整形外科
103	Jikei Medical Journal 2011; 58:63-67	Solitary fibrous tumor arising from periosteum in the thoracic spine.	Soshi S, Inoue T, Kida Y, Ozawa M, Marumo K, Fukuda K, Nikaido T.	整形外科
104	Acta Neurochirurgica 2011; 153(7):1443-1445	Continuous skull traction followed by closed reduction in chronic pediatric atlantoaxial rotatory fixation.	Chazono M, Saito S, Ryu K, Marumo K.	整形外科
105	J Immunother 2011;34(2):121-128.	Contransfection of poly(I:C) and siRNA of IL-10 Into Fusions of Dendritic and Glioma Cells Enhances Antitumor T Helper Type 1 Induction in Patients With Glioma.	Akasaki Y, Kikuchi T, Irie M, Yamamoto Y, Arai T, Tanaka T, Joki T, Abe T.	脳神経外科
106	Neurosurgery. 2011 May;68(5):1427-32;	Robotic digital subtraction angiography systems within the hybrid operating room.	Murayama Y, Irie K, Saguchi T, Ishibashi T, Ebara M, Nagashima H, Isoshima A,	脳神経外科
107	Neurol Med Chir 2011;51:600-603.	Frontal Sinus Mucocele With Intracranial Extension Associated With Osteoma in the Anterior Cranial Fossa -Case Report-	Sakamoto H, Tanaka T, Kato N, Hasegawa Y, Abe T.	脳神経外科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
108	Neurol Med Chir 2011;51(5)378-382.	Hemangiopericytoma in the Trigone of the Lateral Ventricle -Case Report-.	Tanaka T, Kato N, Arai T, Hasegawa Y, Abe T.	脳神経外科
109	Pain Res Manage 2011 16(5):357-359.	Identification of a persistent primitive trigeminal artery following the transposition technique for trigeminal neuralgia: A case - report.	Kato N, Tanaka T, Sakamoto H, Arai T, Hasegawa Y, Abe T.	脳神経外科
110	Neurol Med Chir 2011; 51:535-538.	Surgical Treatment of a Calcified Rathke's Cleft Cyst With Endoscopic Extended Transsphenoidal Surgery -Case Report-.	Arai T, Horiguchi K, Saeki N, Oka H, Saioto T, Takahashi-Fujigasaki H, Sakamoto H, Hasegawa Y, Abe T.	脳神経外科
111	Neurol Med Chir 2011; 51:805-809.	Combination Therapy of Radiofrequency Lumber Facet Joint Denervation and Epidural Spinal Cord Stimulation for Failed Back Surgery Syndrome -Case Report-	Terao T, Ishii T, Tani S, Abe T.	脳神経外科
112	日創外固定延長会誌 23:15~22.	手外科手術におけるイリザロフミニ創外固定器の有用性	松浦慎太郎, 宮脇剛司, 曾我まゆ子, 林 淳也, 内田 満, 石橋嘉津雄(世田谷下田総合病院整形外科).	形成外科
113	耳鼻展望 54(2):105~115.	顔面神経麻痺 再建とその限界	石田勝大, 内田 満.	形成外科
114	Ann Thorac Cardiovasc Surg 2011;17:148-52	Cryosurgical Left-sided Maze Procedure in Patients with Valvular Heart Disease: Medium-term Results.	Sakamoto Y, Takakura H, Onoguchi K, Hachiya T, Sasaki T, Yoshitake M, Hashimoto K.	心臓外科
115	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2012; 60: 73-81	Reversal of oxidant-mediated biochemical injury and prompt functional recovery after prolonged single-dose crystalloid cardioplegic arrest in the infantile piglet heart by terminal warm-blood cardioplegia supplemented with phosphodiesterase III inhibitor.	Kinouchi K, Morita K, Ko Y, Nagahori R, Shinohara G, Abe T, Hashimoto K.	心臓外科
116	J Thorac Cardiovasc Surg 2011;142:926-32	Ischemic postconditioning promotes left ventricular functional recovery after cardioplegic arrest in an vivo piglet model of global ischemia reperfusion injury on cardiopulmonary bypass.	Shinohara G, Morita K, Nagahori R, Ko Y, Kinouchi K, Abe T, Hashimoto K.	心臓外科
117	J Artif Organs 2011; 14:264-7	Time-related hemolysis in stored shed mediastinal blood after cardiopulmonary bypass.	Nakamura K, Kawahito K.	心臓外科
118	Int J Gynecol Cancer	Role of molecular agents and targeted therapy in clinical trials for women with ovarian cancer.	Ledermann JA	産婦人科
119	Journal of Cytology and Histology	Comparison of two sampling procedures for diagnosing endometrial carcinoma and hyperplasia: outpatient tissue biopsy versus cytologic examination.	Motegi M	産婦人科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
120	Reproductive medicine and biology	Cancellation of in vitro fertilization treatment cycles predicts treatment outcome in female infertility patients aged 40 years or older.	Sugimoto K	産婦人科
121	Journal of Cytology and Histology	Use of Localization and Activity of Thymidine Phosphorylase in Human Gynecological Tumors for Predicting Sensitivity to Pyrimidine Antimetabolite Therapy: An Observational Study.	Kotake Y	産婦人科
122	International Cancer Conference Journal	A case of female adnexal tumor of probable Wolffian origin: significance of MRI findings.	Sato T	産婦人科
123	Oncol Lett	Ovarian cancer complicated by pregnancy: Analysis of 10 cases.	Dobashi M	産婦人科
124	Organ Biology	Non-suture skin closure using collagen vitrigel membrane for future repair of endoscopic fetal myelomeningocele.	Tanemoto T	産婦人科
125	Int Urogynecol J 2011;22:963-70	Urethral compensatory mechanisms to maintain urinary continence after pudendal nerve injury in female rats.	Furuta A, Suzuki Y, Asano K, William C de Groat, Egawa S, Yoshimura N.	泌尿器科
126	BJUI 2011;109:306-10.	Time-dependent changes in bladder function and plantar sensitivity in a rat model of fibromyalgia syndrome induced by hydrochloric acid injection into the gluteus.	Furuta A, Suzuki Y, Honda M, Koike Y, Naruoka T, Asano K, Michael Chancellor, Egawa S and Yoshimura N.	泌尿器科
127	Jpn J Ophthalmol 2011; 55: 647-50.	Anti-aquaporin-4 antibody-positive familial neuromyelitis optica in a mother and daughter	Yoshimine S, Sakai T, Ogasawara M, Shikishima K, Tsuneoka H, Tanaka K.	眼科
128	Eur J Ophthalmol 2011; 21: 657-660.	Improvement in S-cone-mediated visual fields and rod function after correction of vitamin A deficiency.	Hayashi T, Gekka T, Nakano T, Tsuneoka H.	眼科
129	Int Ophthalmol 2011; 31: 471-475.	Color vision in an elderly patient with protanopic genotype and successfully treated unilateral age-related macular degeneration.	Kitakawa T, Hayashi T, Tsuzuranuki S, Kubo A, Tsuneoka H.	眼科
130	Clin Exp Optom 2012; 95: 212-217.	Subfoveal choroidal thickness in multiple evanescent white dot syndrome.	Aoyagi R, Hayashi T, Masai A, Mitooka K, Gekka T, Kozaki K, Tsuneoka H.	眼科
131	Jpn J Ophthalmol. 2011;55(5):581-582.	Necrotizing scleritis in a patient positive for both c- and p-ANCA without underlying systemic vasculitis.	Kuroyanagi K, Sakai T, Yoshida K, Yamada A, Shiba T, Tsuneoka H.	眼科
132	Ophthalmology 2011;118:1217.	Endothelin-1 in Neovascular AMD.	Sakai T, Matsushima M, Tsuneoka H.	眼科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
133	Clin Ophthalmol. 2011;5:1217-1219.	Intravitreal bevacizumab for delayed radiation maculopathy and papillopathy after irradiation for maxillary sinus cancer.	Gondo M, Sakai T, Tsuneoka H, Kanehira C.	眼科
134	Rhinology 49(4):392-6	Mucosal eosinophilia and recurrence of nasal polyps - new classification of chronic rhinosinusitis.	Nakayama T, Yoshikawa M, Asaka D, Okushi T, Matsuwaki Y, Otori N, Hama T, Moriyama H.	耳鼻咽喉科
135	American Journal of Rhinology and Allergy 2011. 26(1):61-4	Risk factors for complications of endoscopic sinus surgery for chronic rhinosinusitis.	Asaka D, Nakayama T, Hama T, Okushi T, Matsuwaki Y, Yoshikawa M, Yanagi K, Otori N, Moriyama H	耳鼻咽喉科
136	Auris, nasus, larynx. 2011 Nov; 39(5):484-9	Impact of residual ethmoid cells on postoperative course after endoscopic sinus surgery for chronic rhinosinusitis.	Okushi T, Mori E, Nakayama T, Asaka D, Matsuwaki Y, Ota F, Chiba S, Otori N, Moriyama H	耳鼻咽喉科
137	Acta Oto-laryngologica. 132(5):563-9	Development of speech and hearing of two children with Pelizaeus-Merzbacher disease presenting only waves I and II of the auditory brainstem response.	Rikitake M, Kimitaka K	耳鼻咽喉科
138	Auris Nasus Larynx. 39(1) 107-9	Primary localized amyloidosis of the nose.	Nakayama T, Otori N, Komori M, Takayanagi H, Moriyama H.	耳鼻咽喉科
139	Annals of allergy, asthma & immunology : official publication of the American College of Allergy, Asthma, & Immunology. 108(3):172-7	Expression of nitric oxide synthases in leukocytes in nasal polyps.	Yoshimura T, Moon TC, St Laurent CD, Puttagunta L, Chung K, Wright E, Yoshikawa M, Moriyama H, Befus AD.	耳鼻咽喉科
140	Auris Nasus Larynx. 2011 19:53-8	Nasal splinting using silicone plates without gauze packing following septoplasty combined with inferior turbinate surgery.	Asaka D, Yoshikawa M, Okushi T, Nakayama T, Matsuwaki Y, Otori N, Moriyama H.	耳鼻咽喉科
141	Auris Nasus Larynx. 2011 39:31-7	Evaluation of symptoms and QOL with calcium alginate versus chitin-coated gauze for middle meatus packing after endoscopic sinus surgery.	Okushi T, Yoshikawa M, Otori N, Matsuwaki Y, Asaka D, Nakayama T, Morimoto T, Moriyama H	耳鼻咽喉科
142	International Advanced Otology. 2012; 8:21-29	Utilization of Caspase-14 Promoter for Selective Transgene Expression in Squamous Layers of Cholesteatoma in the Middle Ear.	Suzuki R, Kojima H, Moriyama H, Manome Y.	耳鼻咽喉科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
143	Clinical & experimental metastasis. 2012;29:19-25	Functional Mutation Analysis of EGFR Family Genes and Corresponding Lymph Node Metastases in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma.	Hama T, Yuza Y, Suda T, Saito Y, Norioze C, Kato T, Moriyama H, Urashima M.	耳鼻咽喉科
144	International journal of General Medicine. 2011. Vol4. 191-5	Support for stroke patients in resumption of driving: patient survey and driving simulator trial.	Hitosugi M, Takehara I, Watanabe S, Hayashi Y, Tokudome S.	リハビリテーション
145	NeuroRehabilitation. 2011;29(4):365-71.	Application of combined 6-Hz primed low-frequency rTMS and intensive occupational therapy for upper limb hemiparesis after stroke.	Kakuda W, Abo M, Kobayashi K, Momosaki R, Yokoi A, Fukuda A, Umemori T.	リハビリテーション
146	Brain Inj. 2011;25(12):1242-8.	Therapeutic application of 6-Hz-primed low-frequency rTMS combined with intensive speech therapy for post-stroke aphasia.	Kakuda W, Abo M, Momosaki R, Morooka A.	リハビリテーション
147	Gan To Kagaku Ryoho. 2011 Apr;38(4):528-33.	Lymphedema	Takakura S, Yoshizawa I, Abo M, Ochiai K.	リハビリテーション
148	Brain Inj. 2011;25(5):496-502.	Anti-spastic effect of low-frequency rTMS applied with occupational therapy in post-stroke patients with upper limb hemiparesis.	Kakuda W, Abo M, Kobayashi K, Momosaki R, Yokoi A, Fukuda A, Ito H, Tominaga A, Umemori T, Kameda Y.	リハビリテーション
149	PM R. 2011 Jun;3(6):516-22; quiz 522.	Baseline Severity of Upper Limb Hemiparesis Influences the Outcome of Low-Frequency rTMS Combined With Intensive Occupational Therapy in Patients Who Have Had a Stroke.	Kakuda W, Abo M, Kobayashi K, Takagishi T, Momosaki R, Yokoi A, Fukuda A, Ito H, Tominaga A.	リハビリテーション
150	Int J Neurosci. 2011 Jul;121(7):373-8.	Combination Treatment of Low-Frequency rTMS and Occupational Therapy with Levodopa Administration: An Intensive Neurorehabilitative Approach for Upper Limb Hemiparesis After Stroke.	Kakuda W, Abo M, Kobayashi K, Momosaki R, Yokoi A, Fukuda A, Ito H, Tominaga A.	リハビリテーション
151	The International journal of neuroscience. 2011. July 23. Vol. 121. No. 7. 373-8	Combination Treatment of Low-Frequency rTMS and Occupational Therapy with Levodopa Administration: An Intensive Neurorehabilitative Approach for Upper Limb Hemiparesis After Stroke.	Kakuda W, Abo M, Kobayashi K, Momosaki R, Yokoi A, Fukuda A, Ito H, Tominaga A.	リハビリテーション
152	Jikeikai Medical Journal. 2011. 58. 103-8	Outpatient Application of Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation and Occupational Therapy for Upper Limb Hemiparesis after Stroke: A Pilot Study.	Kakuda W, Abo M, Momosaki R, Yokoi A, Ito H, Ishikawa A, Taguchi K.	リハビリテーション
153	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2011 Dec 14	Comparison of the Effects of High- and Low-frequency Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation on Upper Limb Hemiparesis in the Early Phase of Stroke.	Sasaki N, Mizutani S, Kakuda W, Abo M.	リハビリテーション

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
154	Brain Dev.2011.Vol33.No.6.508-11	Validity and reliability of Ability for Basic Movement Scale for Children (ABMS-C) in disabled pediatric patients.	Miyamura K,Hashimoto K,Honda M.	リハビリテーション
155	Magn Reson Imaging. 2012 Jan 26.	Voxel- and atlas-based analysis of diffusion tensor imaging may reveal focal axonal injuries in mild traumatic brain injury - comparison with diffuse axonal injury.	Kasahara K, Hashimoto K, Abo M, Senoo A.	リハビリテーション
156	J Neuroeng Rehabil. 2012 Jan 20;9(1):4.	A multi-center study on low-frequency rTMS combined with intensive occupational therapy for upper limb hemiparesis in post-stroke patients.	Kakuda W,Abo M,Shimizu M,Sasanuma J,Okamoto T,Yokoi A,Taguchi K,Mitani S,Harashima H,Urishidani N,Urashima M and The NEURO Investigators.	リハビリテーション
157	Eur Neurol. 2012;67(2):74-80.	Which Cortical Area Is Related to the Development of Dysphagia after Stroke? A Single Photon Emission Computed Tomography Study Using Novel Analytic Methods.	Momosaki R,Abo M,Kakuda W,Uruma G.	リハビリテーション
158	Jikeikai Medical Journal.2012.59.5-9	Evaluation of the Family-rated Kinder Infant Development Scale (KIDS) for Disabled Children.	Hashimoto K,Matsui N,Yakuwa H,Miyamura K.	リハビリテーション
159	Eur J Phys Rehabil Med. 2012 Mar;48(1):47-55.	Combined therapeutic application of botulinum toxin type A, low-frequency rTMS, and intensive occupational therapy for post-stroke spastic upper limb hemiparesis.	Kakuda W, Abo M, Momosaki R, Yokoi A, Fukuda A, Ito H, Tominaga A, Umemori T, Kameda Y.	リハビリテーション
160	日顎関節会誌 2011; 23(3): 143-8.	東京都内一般歯科診療所受信者における顎関節症スクリーニングと性別就業内容に関する予備研究.	杉崎正志, 高野直久(東京都歯科医師会), 林勝彦, 齋藤 高, 来間恵里, 木野孔司1, 西山 暁1(1東医歯大).	歯科
161	Int J Oncol 2011;39(5):1327-36. (2011/11)	Three-dimensional culture promotes reconstitution of the tumor-specific hypoxic microenvironment under TGF β stimulation.	Marushima H,	生化学講座
162	臨床病理 2011;59(8)763-9 (2011/8)	癌免疫細胞療法実施後にCEA偽高値を呈した患者血清の検討.	阿部正樹	中央検査部
163	J Cell Physiol 2012;227(3):1130-7 (2012/3)	Free fatty acids induce transglutaminase 2-dependent apoptosis in hepatocytes via ER stress-stimulated PERK pathways.	Kuo TF	Riken
164	Biomacromolecules 2011;12(5):1532-9 (2011/5)	Spheroid formation and expression of liver-specific functions of human hepatocellular carcinoma-derived FLC-4 cells cultured in lactose-silk fibroin conjugate sponges.	Gotoh Y	Natl Inst Agrobiol Sci

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
165	BBRC 2011;407(1):135-40. (2011/4/1)	Hepatitis C virus RNA replication in human stellate cells regulates gene expression of extracellular matrix-related molecules.	Watanabe N	Natl Inst Infect Dis
166	Obesity surgery. 2012;22(2):240-47.	Prevalence of liver steatosis and fibrosis and the diagnostic accuracy of ultrasound in bariatric surgery patients.	Wu J, You J, Yerian L, Shiba A, Schauer PR, Sessler DI.	麻酔部
167	Anesthesia and analgesia. 2012;114(3):552-60.	Angiotensin converting enzyme inhibitors are not associated with respiratory complications or mortality after noncardiac surgery.	Turan A, You J, Shiba A, Kurz A, Saager L, Sessler DI.	麻酔部
168	Anesthesia and analgesia. 2011;113(3):540-44.	The effect of altering skin-surface cooling speeds on vasoconstriction and shivering thresholds.	Taniguchi Y, Lenhardt Rainer, Sessler Daniel, Kurz Andrea.	麻酔部
169	Nephrology Dialysis Transplantation. 2012;27(3):947-52.	Severe acute kidney injury not treated with renal replacement therapy: characteristics and outcome.	Schneider AG, Uchino S, Bellomo R.	集中治療部
170	The International journal of artificial organs. 2011;34:571-76.	Nafamostat mesilate as an anticoagulant during continuous veno-venous hemodialysis: a three-year retrospective cohort study.	Maruyama Y, Yoshida H, Uchino S, Yokoyama K, Yamamoto H, Takinami M, Hosoya T.	集中治療部
171	International journal of obstetric anesthesia. 2011;20:229-35.	A retrospective survey of adverse maternal and neonatal outcomes for parturients with congenital heart disease.	Hidano G, Uezono S, Terui K.	麻酔部
172	The American journal of physiology. 2011;301(5):1116-27.	Real-time measurement of the length of a single sarcomere in rat ventricular myocytes: a novel analysis with quantum dots.	Serizawa T, Terui T, Kagemoto T, Mizuno A, Shimozawa T, Kobirumaki F, Ishiwata S, Kurihara S, Fukuda N.	麻酔部
173	Antioxidants & redox signaling. 2011;15(2):343-52.	Inhaled hydrogen sulfide prevents neurodegeneration and movement disorder in a mouse model of Parkinson's disease.	Kida K, Yamada M, Tokuda K, Marutani E, Kakinohana M, Kaneki M, Ichinose F.	麻酔部
174	Neuroscience letters. 2011;502(1):52-5.	Up-regulation of spinal glutamate transporters contributes to anti-hypersensitive effects of valproate in rats after peripheral nerve injury.	Hobo S, Eisenach JC, Hayashida K.	麻酔部
175	Stroke; a journal of cerebral circulation. 2011;42(8):2302-7.	Delayed paraplegia after spinal cord ischemic injury requires caspase-3 activation in mice.	Kakinohana M, Kida K, Minamishima S, Atochin DN, Huang PL, Kaneki M, Ichinose F.	麻酔部
176	Circulation. 2011;124(15):1645-53.	Inhaled nitric oxide improves outcomes after successful cardiopulmonary resuscitation in mice.	Minamishima S, Kida K, Tokuda K, Wang H, Sips PY, Kosugi S, Mandeville JB, Buys ES, Brouckaert P, Liu PK, Liu CH, Bloch KD, Ichinose F.	麻酔部

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
177	Journal of applied physiology. 2011;111(4):1080-7.	Depressed contractile performance and reduced fatigue resistance in single skinned fibers of soleus muscle after long-term disuse in rats.	Udaka J, Terui T, Ohtsuki I, Marumo K, Ishiwata S, Kurihara S, Fukuda N.	麻酔部
178	The journal of physiological sciences. 2011;61(6):515-23.	Sarcomere length-dependent Ca ²⁺ activation in skinned rabbit psoas muscle fibers: coordinated regulation of thin filament cooperative activation and passive force.	Fukuda N, Inoue T, Yamane M, Terui T, Kobirumaki F, Ohtsuki I, Ishiwata S, Kurihara S.	麻酔部
179	Int J Surg Oncol 2011;2011:242608.	Imaging by Magnifying Endoscopy with NBI Implicates the Remnant Capillary Network As an Indication for Endoscopic Resection in Early Colon Cancer.	Saito S, Tajiri H, Ohya T, Nikami T, Aihara H, Ikegami M.	内視鏡科
180	Gastrointest Endosc 2012; 75(2): 405-10.	In vivo histologic imaging of the muscularis propria and myenteric neurons with probe-based confocal laser endomicroscopy in porcine models (with videos).	Ohya TR, Sumiyama K, Takahashi-Fujigasaki J, Dobashi A, Saito S, Tajiri H.	内視鏡科
181	Gastrointest Endosc 2012; 75(2): 373-81.	Blinded nonrandomized comparative study of gastric examination with a magnetically guided capsule endoscope and standard videoendoscope.	Rey JF, Ogata H, Hosoe N, Ohtsuka K, Ogata N, Ikeda K, Aihara H, Pangtay I, Hibi T, Kudo SE, Tajiri H.	内視鏡科
182	Minim Invasive Ther Allied Technol 2012; 21(2): 71-7.	A pilot study on ultrasound-assisted liposuction of the greater omentum in porcine models.	Sumiyama K, Utsunomiya K, Ohya T, Aihara H, Ikeda K, Imazu H, Tamai N, Nagano H, Ishinoda Y, Tajiri H.	内視鏡科
183	厚生労働科学研究費補助金(医療技術実用化総合研究事業)平成23年度総括・分担研究報告書. 2011;149-159.	経頭蓋超音波併用脳血栓溶解法の再開通時間評価に関する研究.	小川武希, 持尾聰一郎, 三村秀毅.	救急部
184	厚生労働科学研究費補助金(医療技術実用化総合研究事業)平成23年度総括・分担研究報告書.	超音波血栓成長抑制効果の研究ー塞栓成長抑制・再開塞予防の可能性ー.	金本光一, 古幡博, 小川武希, 澤口能一, 王作軍.	救急部
185	神経外傷. 2011;34:1-6.	日本頭部外傷データベースにおけるOne Week Studyの総括.	重森 稔(久留米大学脳神経外科), 小野純一(千葉県循環器センター脳神経外科), 小川武希, 他.	救急部
186	Neurol Med Chir(Tokyo).2012; 52(1):1-30.	Guidelines for the Management of Severe Head Injury, 2nd Edition, Guidelines from the Guidelines Committee on the Management of Severe Head Injury, the Japan Society of Neurotraumatology.	Shigemori M(the Japan Neurosurgical Society 1), Abe T1, Aruga T1, Ogawa T1, Okudera H1), et al.	救急部
187	Intern Med 2012; 51: 59	Clinical Characteristics and risk factors for mortality in patients with bacteremia caused by Pseudomonas aeruginosa.	Horino T, Chiba A, Kawano S, Kato T, Sato F, Maruyama Y, Nakazawa Y, Yoshikawa S, Yoshida M, Hori S.	感染制御部

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
188	BJU international 109(4):515-9; 2011.	The impact of hypertriglyceridemia on prostate cancer development in patients aged ≥ 60 years.	Hayashi N , Matsushima M, Yamamoto T, Sasaki H, Takahashi H, and Egawa S.	病院病理部
189	Nature genetics 44(4):426-9; 2012.	Common variants at 11q12, 10q26 and 3p11.2 are associated with prostate cancer susceptibility in Japanese.	Akamatsu S, Takata R, Haiman CA, Takahashi A, Inoue T, Yamakado M, Takahashi H, et al.	病院病理部
190	Case Reports in Gastroenterology 6(1):40-6;2011.	Histopathologically proven autoimmune pancreatitis mimicking neuroendocrine tumor or pancreatic cancer.	Onda S, Okamoto T, Kanehira M, Fujioka S, Harada T, Hano H, Fukunaga M, Yanaga K.	病院病理部
191	Japanese Journal of Radiology 30(2):128-366; 2011.	Radiographic and CT features of radiation-induced organizing pneumonia syndrome after breast-conserving therapy.	Kano A, Ujita M, Kobayashi M, Sunakawa Y, Shirahama J, Harada T, Kanehira C, Fukuda K	病院病理部
192	J Am Assoc Lab Anim Sci 61(5):1-7; 2011.	Sex-Associated Difference in Estrogen Receptor beta Expression in N-Methyl-N'-Nitro-N-Nitrosoguanidine-Induced Gastric Cancers in Rats.	Wakui S, Motohashi M, Muto T, Suzuki Y, Takahashi H, Hano H, Endou H.	病院病理部
193	Case Reports Gastroenterology 6(1):40-6; 2011.	Histopathologically Proven Autoimmune Pancreatitis Mimicking Neuroendocrine Tumor or Pancreatic Cancer.	Onda S, Okamoto T, Kanehira M, Fujioka S, Harada T, Hano H, Fukunaga M, Yanaga K.	病院病理部
194	Am J Respir Cell Mol Biol 46(3):306-12; 2011.	Involvement of creatine kinase B in cigarette smoke-induced bronchial epithelial cell senescence.	Hara H, Araya J, Takasaka N, Fujii S, Kojima J, Yumino Y, Hano H, et al.	病院病理部
195	Pathol Oncol Res 43(4):536-49; 2011.	Clinical and Prognostic Value of the Presence of Irregular Giant Nuclear Cells in pT1 Ovarian Clear Cell Carcinoma.	Matsumoto N, Umezawa T, Sasaki T, Nakajima K, Kanetsuna Y, Sasaki H.	病院病理部
196	Prostate Cancer Prostatic Dis 15:150-6; 2011.	Elevated osteonectin/SPARC expression in primary prostate cancer predicts metastatic progression.	Derosa CA, Furusato B, Shaheduzzaman S, Srikantan V, Wang Z, Chen Y, et al.	病院病理部
197	Adv Exp Med Biol 720:71-80; 2011.	Novel human prostate epithelial cell culture models for the study of carcinogenesis and of normal stem cells and cancer stem cells.	Rhim JS, Li H, Furusato B.	病院病理部
198	Histology and histopathology 26(9):1145-51; 2011.	Inflammatory cytokine and chemokine expression in sympathetic ophthalmia: a pilot study.	Furusato E , Shen D , Cao X , Furusato B , Nussenblatt RB , Rushing EJ , Chan CC.	病院病理部

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
199	Pathology international 61(7):409-14; 2011.	Immunohistochemical ETS-related gene detection in a Japanese prostate cancer cohort: diagnostic use in Japanese prostate cancer patients.	Furusato B, van Leenders GJ, Trapman J, Kimura T, Egawa S, Takahashi H, Furusato M, Visakorpi T, Hano H.	病院病理部
200	Mod Pathol 24(8):1128-38; 2011.	Antibody EPR3864 is specific for ERG genomic fusions in prostate cancer: implications for pathological practice.	van Leenders GJ, Boormans JL, Vissers CJ, Hoogland AM, Bressers AA, Furusato B, Trapman J.	病院病理部
201	Pathol Res Pract 208(1):59-61; 2011.	Paratesticular endometriosis in a man with a prolonged hormonal therapy for prostatic carcinoma.	Fukunaga M.	病院病理部
202	Int J Urol 18(12):871-2; 2011.	Editorial comment from Dr Fukunaga to Glomus tumor of the kidney.	Fukunaga M.	病院病理部
203	Obstet Gynecol 118(4):847-53; 2011.	Clinical features of early-stage nonhydropic mole for diagnosis of persistent trophoblastic disease.	Miyoshi J, Ohba T, Fukunaga M, Katabuchi H.	病院病理部
204	Pathol Int 61(6):377-81; 2011.	Pure alveolar rhabdomyosarcoma of the uterine corpus.	Fukunaga M.	病院病理部
205	Jikeikai Med J 58(4):95-102; 2011.	No Oncogenic Role for WT1 in Peripheral Nerve Sheath Tumors.	Inagaki T, Fukuda T, Ohta A, Hano H.	病院病理部
206	J Nippon Med Sch 78(2):84-95; 2011.	Determining best potential predictor during high-dose progestin therapy for early staged and well-differentiated endometrial adenocarcinoma using semiquantitative analysis based on image processing and immunohistochemistry.	Kamoi S, Ohaki Y, Mori O, Yamada T, Fukunaga M, Takeshita T.	病院病理部

合計 206件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 森山 寛	
管理担当者氏名 (担当代表者)	診療に関する 諸記録	診療各科責任者、各病棟・各外来看護師長 放射線部技師長、薬剤部長、他関係部署責任者
事務部長 植松 美知男	管理運営に関する 諸記録	事務部長、薬剤部長、総務部長、大学事務部長 財務部長、他関係部署責任者

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		院長室 診療部署単位 ・診療情報室 ・各科外来 ・各病棟 ・フィルム係 他	科別、入院外来別、年度別、 月別患者登録番号順、日付順 (記録の種類により異なる)
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課 臨床研修センター 教員・医師人事室	
	高度の医療の提供の実績	診療各科、 管理課	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	診療各科、 管理課	
	高度の医療の研修の実績	診療各科、 管理課、 臨床研修センター	
	閲覧実績	管理課、業務課	
	紹介患者に対する医療提供 の実績	診療各科	
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳簿	管理課、業務 課、薬剤部	
規則第一 号に掲げ る十一 条第一 項各号 及び第 九条の 二十二 第一項	医療に係る安全管理の ための指針の整備状況	医療安全推進 室及び関係各 部署	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
	医療に係る安全管理のた めの委員会の開催状況	医療安全推進室	医療安全推進室「委員会」ファイル
	医療に係る安全管理のた めの職員研修の実施状況	医療安全推進室	医療安全推進室「教育研修」ファイル
	医療機関内における事故 報告等の医療に係る安全 の確保を目的とした改善 のための方策の状況	医療安全推進室	医療安全推進室「管理」ファイル
	専任の医療に係る安全管 理を行う者の配置状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
	専任の院内感染対策を 行う者の配置状況	感染対策室	東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策指針
	医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
	当該病院内に患者から の安全管理に係る相談 に適切に応じる体制の 確保状況	看護部 (患者相談窓口 担当)	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則 第一条の十一 第一項各号及び第九条の二十三 第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室 東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策指針
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室 感染対策室「感染対策委員会」ファイル
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全推進室 感染対策室 医療安全推進室「教育研修」ファイル
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室 感染対策室ファイル
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 医療安全推進室「教育研修」ファイル
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院 セーフティマネジメントマニュアル 医薬品安全使用のための業務手順書 実施状況調査ファイル
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全推進室 医薬品安全使用のための業務手順書 「病棟部門・手術部門・集中治療部門・外来部門・薬剤部・輸血部等」ファイル
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全推進室 臨床工学部 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針 年度別に参加者、講義内容をファイル
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 医療安全推進室「教育研修」ファイル
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部、放射線部、中央検査部、リハビリテーション科 セーフティマネジメントマニュアル内 「医療機器の保守点検・安全使用に関する管理手順書」に基づく所定書式にて分類		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部 セーフティマネジメントマニュアル内 「医療機器の保守点検・安全使用に関する管理手順書」に基づく所定書式にて分類		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	院長 森山 寛	
閲覧担当者氏名 (担当代表者) 事務部長 植松 美知男	診療に関する諸記録	診療各科責任者、各病棟・各外来看護師長、 放射線部技師長、薬剤部長、他関係部署責任者
	管理運営に関する 諸記録	事務部長、薬剤部長、総務部長、大学事務部長、 他関係部署責任者
閲覧の求めに応じる場所	附属病院会議室	

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	3 件
閲覧者別	医 師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	3 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	54.0 %	算定期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数	22,289 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	15,589 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	4,846 人	
	D：初診の患者の数	63,520 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理に関する基本的な考え方2. 医療安全管理のための組織・体制3. 医療に係わる安全管理のための教員研修4. 医療問題発生時の対応5. 医療事故発生時の対応6. 患者相談窓口の設置7. 患者との情報共有8. 附属4病院の連携強化（情報の共有）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<p>・活動の主な内容：セーフティマネジメント委員会</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療事故防止対策の検討及び研究2. 医療事故の分析及び再発防止策の検討3. 医療事故防止のための提言4. 医療安全推進のための啓発、教育、広報及び出版5. 医薬品、医療機器の安全管理及び院内感染の防止6. 医療安全の推進に関すること7. スタットコール(院内救急)に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年73回
<p>・研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. セーフティマネジメント基礎研修会2. 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム3. 転倒・転落予防のための勉強会4. 褥瘡セミナー5. 派遣・委託職員対象セーフティマネジメント研修会6. BLSコース/ICLSコース7. チーム医療構築ワークショップ8. 医療機器の安全使用のための講習会	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院長、医療安全管理部長及び医療安全推進室等の管理部門への報告体制の確立と組織的対応の実施2. ネットワークパソコンによる医療問題発生報告システムの運用	

3. 緊急セーフティマネジメント委員会での事実確認及び組織的対応の実施 4. セーフティマネジメント委員会及びフロアセーフティマネージャー会議、医療安全推進室を通じた再発防止策の周知と徹底 5. 医療問題分析ツールRCA分析による根本原因の分析と対策立案 6. 問題種別のワーキンググループによる再発防止対策の立案と実践 7. 医療安全院内ラウンドによる評価、検証、フィードバックの実施 8. 関東信越厚生局及び東京都福祉保険局、日本医療機能評価機構への適切な報告 9. 所轄警察署への適切な報告 10. 異状死届出ガイドラインの整備とモデル事業への参画 11. 医療事故等に関する判定委員会の設置と医療事故等公表基準の整備	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	④ (2名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	④ (2名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	④ ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (9) 名 兼任 (11) 名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. インシデント・アクシデント等の情報の収集、分析、予防・改善策の立案及び実施 2. 教職員への安全に関する教育・研修の企画、実施 3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載の確認と助言 4. 改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言、コンサルテーション 5. 改善策実施後の評価 6. セーフティマネジメントマニュアルの整備・管理 7. セーフティマネジメント委員会の資料及び議事録の作成及び保存、その他セーフティマネジメント委員会の庶務に関すること 8. 医療安全連絡会議の運営に関すること 9. 院内感染対策に関する連携 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	④ ・ 無

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年13回
<p>・研修の主な内容：（昨年の医療監視以降開催分）</p> <p>看護師注射薬ミキシング講習会（H23.12） 「注射薬混合調製の基礎知識」 糖尿病代謝内分泌科病棟誤薬対策講習会（H23.12） 「インスリン製剤の種類と使用上の注意点」 小児病棟誤薬対策講習会（H24.1） 「処方箋と与薬エラー防止」 薬剤部全体連絡会（H24.2） 「薬品管理について」 医薬品・医療機器安全使用セミナー（H24.2） 「抗菌薬の考え方と管理について」 医薬品安全使用セミナー（H24.3） 「慢性疼痛への新規薬剤の適応と使用法」 薬剤部全体連絡会（H24.2） 「周術期に休薬が必要な薬剤について①」 新人薬剤師研修会（H24.4） 「医療安全における医薬品の安全管理について」 新人看護師研修会（H24.5） 「くすりの安全な使用について」、「注射薬混合調製の基礎知識」 医薬品・医療機器安全使用セミナー（H24.7） 「薬の安全な使用について」 看護師注射薬ミキシング講習会（H24.8） 「注射薬混合調製の基礎知識」 薬剤部全体連絡会（H24.9） 「周術期に休薬が必要な薬剤について②」 医薬品安全使用セミナー（H24.10） 「慢性疼痛の治療と薬剤使用について」</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （☑・無） ・ 業務の主な内容：</p> <p>今年度は、「前年度のヒヤリ・ハット事例として繰り返し報告された注意喚起項目」、「抗癌剤漏出予防と漏出時の対応」、「集中治療部門での医薬品安全使用に関する手順」、「ハイリスク薬品の取り扱い」について、業務手順書の改定を行い、その後手順書(チェックリストとして使用可)を関係部署へ配布し実施状況の確認を行い、記録した。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （☑・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>平成23年度から薬剤のヒヤリ・ハット報告を積極的収集を行っており、繰り返し報告されている類似薬品名のオーダ間違いに対して、オーダ方法を変更し再発防止に努めた。また、医薬品の安全情報について(緊急安全性情報、安全性情報、PMDA医薬品適正使用通知)は、オーダリングシステム上に、リスク情報として登録し、オーダ時にアラート表示により処方医への注意喚起が確認できるよう改善した。セーフティマネジメント委員会の一部として、薬剤関連ワーキンググループを設置し、毎月のインシデント報告の分析を基に改善の検討を行い、抗癌剤の漏出予防と漏出時の対応マニュアルを整備した。また、薬剤部医薬品情報室および病棟薬剤師と連携し、メーカー、インターネットからの情報収集、部外講習会への参加をするなどして情報の収集を行い、必要に応じて院内への情報提供を行なっている。</p>	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	㊟・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年335回
<p>・ 研修の主な内容： ・ 研修の主な内容：</p> <p>4月20日（水）MR I 安全講習会 5月28日（金）輸液ポンプ、シリンジポンプの正しい取扱いについて 6月3日（金）輸液ポンプ、シリンジポンプの正しい取扱いについて 6月17日（金）輸液ポンプ、シリンジポンプの正しい取扱いについて 7月6日（水）MR I 装置の正しく安全な取扱いを学ぶ 7月8日（金）医薬品・医療機器の安全講習会 9月16日（金）チェストドレーンバッグの基礎知識 9月30日（金）医療ガス安全管理講習会 10月12日（水）MR I 安全講習会 10月21日（金）医薬品・医療機器の安全講習会 11月11日（金）酸素療法器具の正しい取扱いについて 12月2日（金）深部静脈血栓予防機器・器具の正しい取り扱いについて 1月20日（金）メラサキュームの正しい取り扱いについて 2月24日（金）医薬品・医療機器の安全講習会</p> <p>医療機器安全講習会（開催回数、出席者数）</p> <p>① 放射線部 28回（前年比：+2回）（参加者：183名 前年比：+21名） ② 中央検査部 69回（前年比：+57回）（参加者：47名 前年比：+32名） ③ リハ科 4回（前年比：-1回）（参加者：15名 前年比：-21名） ④ 臨床工学部 234回（前年比：+53回）（参加者：2545名 前年比：+744名）</p> <p>総計：335回（前年比：+111回）（参加者総数：2790名 前年比：+744名）</p> <p>内）「医療機器安全使用のための講習会」10回（前年比：-2回） （参加者：983名 前年比：+472名）</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (㊟・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容： ・ 保守点検の主な内容：</p> <p>中央検査部、リハビリテーション科、臨床工学部関連（各外来、ICU、CCU、母子センターなどの特殊病棟含む全病棟、手術室、血液浄化部、救急部、内視鏡部など）それぞれの部門に設置（配置）されている各種機器について、日常点検（始業点検、使用中点検、使用後点検）を行う。</p> <p>☆保守点検を実施している主な医療機器 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ</p>	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

医療機器に関する情報管理業務状況

1) 安全性情報

①診療連絡速報 (2回発行)

- 平成23年8月 NO.23-(84)A
「医療ガスボンベ管理の再確認について」
- 平成23年8月 NO.23-(84)A
「電気メスによる薬剤の引火」について」

②診療連絡報 (12回発行)

- 平成23年4月 NO.23-(23)B
「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (3月分)」
- 平成23年6月 NO.23-(53)B
「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (5月分)」
- 平成23年6月 NO.23-(54)B
「デュアルチャンバ自動植え込み型除細動器自主回収の報告」
- 平成23年7月 NO.23-(73)B
「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (6月分)」
- 平成23年9月 NO.23-(102)B
「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (8月分)」
- 平成23年11月 NO.23-(133)B
「未就学児への自動体外式除細動器、成人用体表用除細動電極使用に係る「使用上の注意」の改定指示」
- 平成23年11月 NO.23-(136)B
「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (10月分)」
- 平成23年12月 NO.23-(155)B
「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (11月分)」
- 平成23年12月 NO.23-(159)B
「心電図モニター取り扱い時の注意について」
- 平成24年1月 NO.23-(172)B
「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (12月分)」
- 平成24年2月 NO.23-(186)B
「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (1月分)」
- 平成24年3月 NO.23-(198)B
「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (2月分)」

③お知らせ (発行なし)

2) 医療機器安全管理作業部会情報

①医療機器安全管理情報 (3回発行)

- 平成23年7月6号
「本院 臨床工学部のホームページ開設について」
- 平成23年10月7号
「輸液・シリンジポンプ 点滴スタンドへの取り付け位置 (高さ) についての再確認」
- 平成23年10月8号
「中央管理機器貸し出し方法の変更について」

3) 医療機器の不具合情報の発信 (発生時随時)

自主回収報告数 (発生件数)

合計：15件 (クラスⅠ：1件、クラスⅡ：14件、クラスⅢ：0件、計15件)